

## 設備見積業務における CI-NET 形式データ作成の解説

2018 年 2 月  
一般財団法人建設業振興基金  
情報化評議会

## 目次

1.	CI-NET LiteS データ明細行関連コードの表現事例について	1
2.	見積書の明細部分の表現に対する CI-NET の対応	1
	(1) 建設業界の見積書の構造	1
	(2) CI-NET の対応	3
3.	設備見積メッセージ明細部分のデータ項目	4
	(1) 使用データ項目	4
	(2) データ項目の推奨規則	4
4.	明細行関連コード等の説明	5
	(1) [1200]明細コード	6
	(2) [1288]明細データ属性コード	9
	(3) [1289]補助明細コード	14
5.	明細部分の留意点	27
5-1	総括明細行と内訳明細行の混在に係る留意点	27
	(1) [1200]明細コード	27
	(2) 検討結果	
5-2	内訳明細計行に係る留意点	28
6.	CSV インタフェース機能	29
	(1) インタフェースファイル 作成イメージ	30
	(2) 内訳明細書からインタフェースファイルを作成	31
	(3) インタフェースファイル txt 順序	32
	1) 全体情報部分(鑑、拡張子=INF)のデータ項目記載順序の表	35
	2) 明細部分(拡張子=DAT)のデータ項目記載順序の表	38
	参考資料	39
1.	見積書	39
2.	内訳明細「書」のイメージ 正規と正規ではない場合	41

## 1. CI-NET LiteS データ明細行関連コードの表現事例について

CI-NET LiteS 実装規約 Ver.2.1ad.7(以下「CI-NET LiteS 実装規約」という。)では、各メッセージ共通に明細部分(明細情報部分)はフラットな表現と階層構造の表現を共に許すルールと成っており、この表現には[1200]明細コード、[1288]明細データ属性コード、[1289]補助明細コード(以下「明細行関連コード」という。)があるが、これらのコードの作成・運用において解釈の違うCI-NET LiteS のデータが見受けられるとの指摘を受けている。

そこで、明細部分の作成・運用の援助となることを目的とし、[明細行関連コード]の使用事例を公表する。

## 2. 見積書の明細部分の表現に対する CI-NET の対応

### (1) 建設業界の見積書の構造

建設業界の見積書は、大きく鑑の部分と明細の部分に分かれている。鑑部分には発注者名、受注者名や見積書の日付、見積金額総額などが記載され、明細部分はその見積金額の内容を説明する位置付けで記載されている。従って明細部分には、具体的な工種やそれぞれの工事で使用する資機材とそれらの数量や金額が記載される。また明細部分は、工種別や棟別、部位別など、それぞれの工事が持つ特徴により、明細記載における表現の違いがある。

以下に一例として、左官工事の場合の例を示す。

基金建設株式会社 東京支店 振興産業株式会社	CI-NETビル 左官工事	工事No.: 016081 見積依頼No.:01661	購買見積依頼 (参考)
<b>見積書(購買見積回答書)</b>			
基金建設株式会社 東京支店 御中		<b>見積回答者</b> 住所 105-0014 東京都港区芝1-2-3  会社名 振興産業株式会社 代表者名 振興 一郎 tel. fax. 03-03-5484-6666 03-03-5484-7777 下記の通りお見積もり致します。	
工事コード 016081 工事名称 CI-NET共済組合会館(仮称)建築工事 住所 〒102 東京都千代田区隼町1-1-5 見積提出期限 2002年 9月27日 見積依頼No. 01161- 取引件名 左官工事 原備要素名 1 外注 原備科目名 402 左官工事 原備細目名 402 左官工事 工期・納期 2005年10月01日E 2005年12月20日 基本契約 2005年01月05日	見積金額 ¥82,015,500 円 うち 工事金額 ¥78,110,000 円 消費税額 5% ¥3,905,500 円 消費税コード: 外税 課税分類コード 1: 課税対象 支払条件 基金建設の規定による 精算条件 実数実測による 保証期間指定 無償保証期間 施工引渡し日から1年 保険条項 労災保険の加入 注文者		
参考用 CI-NET LiteS 注文者側発行回数 1			

図1. 見積書 鑑部分(全体情報)の例

記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考
	左官工事						
1	外部		1	式	36,944.700	36,944.700	
2	内部		1	式	33,176.000	33,176.000	
3	屋根他伸縮目地取り付け		1	式	998.000	998.000	
4	総費		1	式	6,991.300	6,991.300	

記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考
	外部						
5	廊エントランス 床						
明	モルタル金鏝押え	タイル下	83	m2	2,000	166,000	
6	屋根バラベツト 立上り						
明	モルタル金鏝押え	タイル下	92	m2	4,000	367,200	
7	屋根バラベツト 立上り						
明	モルタル金鏝押え		8	m2	4,000	31,200	
8	庭 立上り						
明	モルタル金鏝押え	タイル下	16	m2	4,000	63,200	
9	サンルーム前 排水溝						
明	防水モルタル	系310-350	12	m	3,000	36,900	
10	バルコニ 排水溝						
明	防水モルタル	系100-150 溝底のみ	1,559	m	2,000	3,118,000	
11	バルコニ 排水溝						
明	防水モルタル	系310-350	498	m	3,000	1,494,000	
12	4-F 排水溝						
明	防水モルタル	系310-350	22	m	3,000	66,000	
13	庭ピロティ 立上り						
明	モルタル面取り		118	m	1,000	118,000	
14	屋根防水押さえ 床						
明	コンクリート直押え		534	m2	1,000	534,000	
15	屋根 床						
明	コンクリート直押え	均し	1,351	m2	1,000	1,351,000	
16	エントランス屋根 床						
明	コンクリート直押え	露出防水下	28	m2	1,000	27,800	
17	駐車場入口 床						
明	コンクリート直押え		3	m2	1,000	2,700	
18	庭ピロティ 床						
明	コンクリート直押え	均し	362	m2	1,000	362,000	
19	バルコニ 床						
明	コンクリート直押え	塗膜防水下	1,428	m2	1,000	1,428,000	

図2. 見積書 明細部分(明細情報)の一部の例

明細部分は、フラットな表現と階層構造の表現がよく使われている。その図式化を下図に示す。

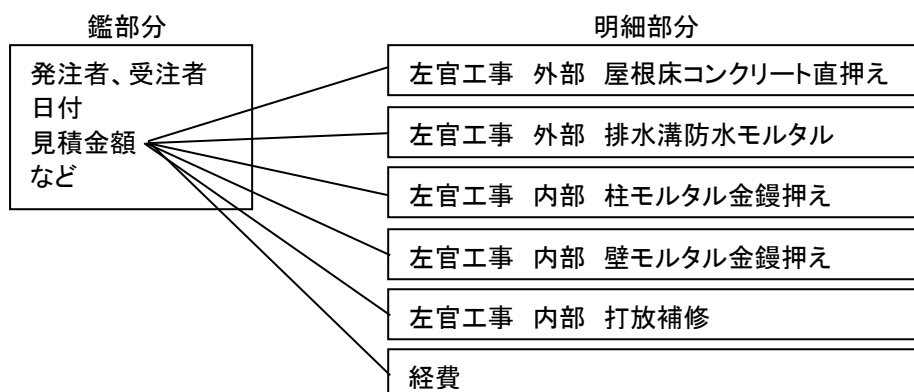


図3. 見積書 明細部分 フラットな表現のイメージ

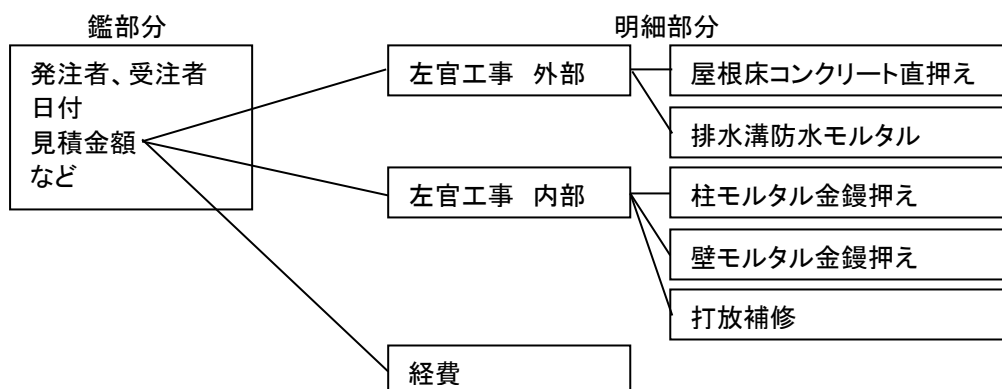


図4. 見積書 明細部分 階層構造の表現のイメージ

## (2) CI-NET の対応

CI-NETでは、見積書をEDIのデータ交換の形式(以下「CI-NET形式データ」という。)とするために、見積書に記載される鑑部分と明細部分を「全体情報」と「明細情報」の2種類のデータ項目に分けて記載できるようにしている(図1、図2を参照)。

また工種別や棟別、部位別などの明細記載における表現の違いについては、データを作成する側で明細行の記載順序を自由に制御することが可能となる仕組み(「4.CI-NET LiteS 実装規約における明細行関連コード等の説明」を参照)を持っている。これを上記の左官工事の例の場合、CI-NET形式データでは、①フラットなデータ構造、②階層構造のデータ構造といった両方の表現が可能としている。

### 3. 設備見積メッセージ明細部分のデータ項目

#### (1) 使用データ項目

表 B.III-1 明細部分のデータ項目

タグ	データ項目名	利用区分										内訳明細書に印刷されるデータ項目	
		総括明細				見積条件等		内訳明細					
		本体行	仕様行	計行	コメント行	見積条件	メーカーリスト	本体行	仕様行	計行	コメント行		印刷項目
1200	明細コード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
1288	明細データ属性コード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
1289	補助明細コード	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
1203	明細別取引区分コード	○						○					
1279	建設資機材コード	○		●				●		●			
1280	コード送信側変換結果コード	○		●				●		●			
1281	建設資機材標準名称	○		○				○		○			
1282	コード受信側変換結果コード	○		●				●		●			
1211	摘要コード	○						○					
1213	品名・名称	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1214	規格・仕様・摘要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1218	明細数量	●			○			●			○	○	○
1219	明細数量単位	●			○			●			○	○	○
1222	単価	●			○			●			○	○	○
1223	明細金額	●		○	○			●		○	○	○	○
1292	定価	○						○					
1251	明細別備考欄	○						○				○	○

#### 【凡例】

##### ■ 利用区分

● ; メッセージの処理に不可欠な、省略できないデータ項目。

○ ; メッセージの送信者が取引先との協議のうえ使用を選択できるデータ項目。

空欄 : 当該メッセージでは使用してはならないデータ項目。

#### (2) データ項目の推奨規則

1) [1213] 品名・名称

2) [1214] 規格・仕様・摘要

設備見積書の明細部分の作成・運用において、特に注意すべき部分を「赤字」にて示す。

① ひとつの明細が上下2段の場合、1), 2) と共にデータ項目の入力と印字位置を示す。

上段 品名・名称 1      規格・仕様・摘要 1

下段 品名・名称 2      規格・仕様・摘要 2

3) [1222] 単価

① 明細数量、明細数量単位が「一式」のとき、単価には明細金額と同じ値を入力する。

#### 4. 明細行関連コード等の説明

CI-NET LiteS 実装規約における明細部分の階層表現(フラットな表現と階層構造の両方をいう)には、[1200]明細コード、[1288]明細データ属性コード、[1289]補助明細コードの三つのコード明細行関連コードを利用して表す。

明細情報部分のデータ項目 「明細コード ~ 補助明細コード」	
① 1200 明細コード	} 実装規約の規定に基づき入力する。
② 1288 明細データ属性コード	
③ 1289 補助明細コード	

ここでは、階層表現を表す明細行関連コードの定義および業務における利用規約を説明する。

これら明細行関連コードについては、CI-NET LiteS 実装規約の「データ項目定義と運用の詳細」に記載があり、その抜粋を紹介する。

以下、CI-NET LiteS 実装規約より抜粋

#### データ項目定義と運用の詳細

各メッセージで使用するデータ項目を説明する。

以降において、四角囲みは CI-NET 標準ビジネスプロトコル Ver.1.4(以下「CI-NET 標準 BP」という。)における定義であり、これと異なる運用をする場合、あるいは特に注記が必要な場合にコメントを記している。

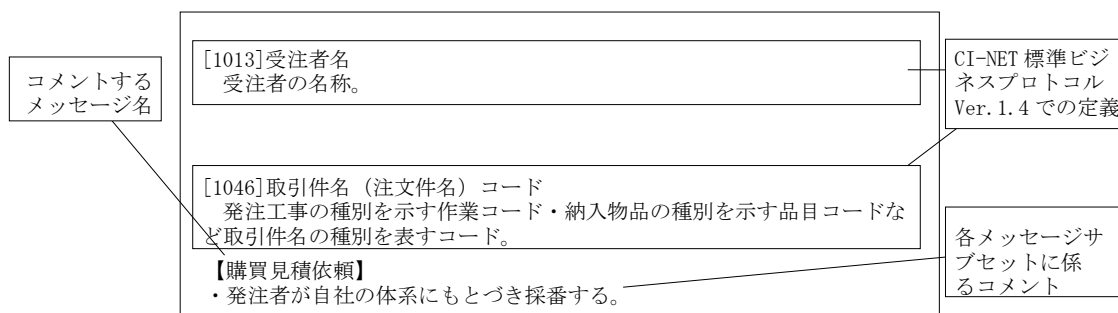


図5. 記載例

#### 【注意事項】

コメントの必要の無いメッセージについては記載していない。

上記例では、[1013]受注者名は購買見積依頼メッセージで使用されるが、CI-NET 標準 BP「3.2.2.4 データ項目定義およびマトリックス」に記載された摘要以外には CI-NET LiteS 実装規約特有の運用ルールはないため記載していない。

(1) [1200]明細コード

[1200]明細コード  
明細データを特定しデータ階層上の位置を示すコード。

全メッセージ共通ルール

【階層構造表現のルール】

- ・「CI-NET 標準 BP」の「3.2.3.16 明細コード」に準拠し、4桁区切りでデータ階層上の位置を表す。
  - ・[1200]明細コードは、データの先頭(左側)から4桁毎に区切り、桁数(=4n)によって階層の深さ(=n)を表し、数字により階層内の位置を表している。採番は昇順である。
  - ・同一の親を持つ明細データ(以下「同一階層内」という。)は、その親の[1200]明細コードの後尾(右側)に4桁の数字を追加し、当該明細データの[1200]明細コードとする。その追加した数字によって同一階層内の位置が特定でき、同一階層内では最大 9999 個の明細データを区別できることになる。
  - ・[1200]明細コードの付与方法としては、本体行([1289]補助明細コード=00 で特定される)と、その行に付随する仕様行([1289]補助明細コード=01~49)には、[1200]明細コードとして同一の値を付与する。この例外を除くと、すべての明細データにはユニークな[1200]明細コードを付与しなければならない。
- したがって、全ての明細データは、[1200]明細コードと[1289]補助明細コードの組合せによってユニークに識別することができる。

【例】明細部分の階層表現の例

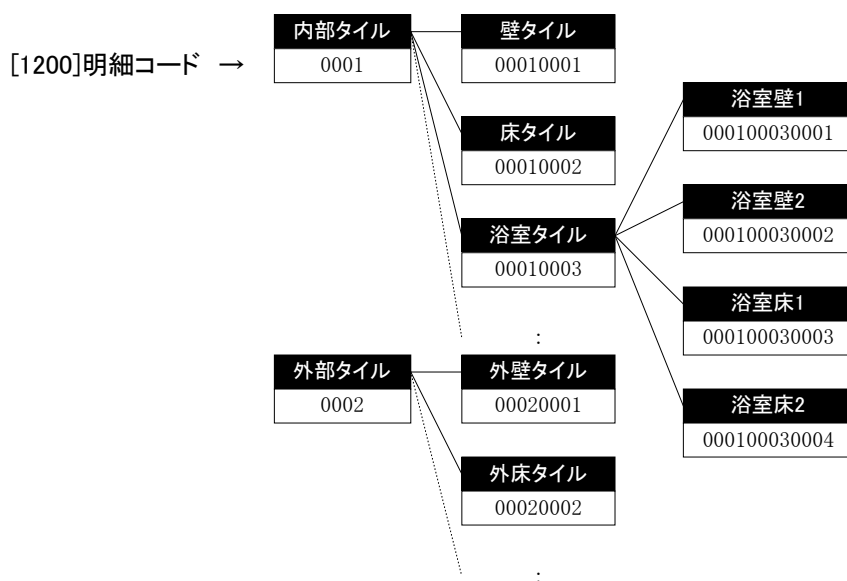


図6. 明細部分の階層構造の例

【データ属性等】

- ・数字のみを使用し、英文字は使用してはならない。
- ・4桁ごとの数字に"0000"を使用してはならない。
- ・4桁ごとの先頭ゼロは省略してはならない。

正:00010001

誤: \_\_1\_\_1 ("\_"はスペースを表す)



・可変長であり、右側の不要な桁は記載してはならない。

正:00010001

誤:000100010000

誤:00010001\_\_\_\_\_ ("\_"はスペースを表す)

設備見積のメッセージ個別ルール

設備見積業務にはない。

【例】設備見積明細部分の階層表現の例

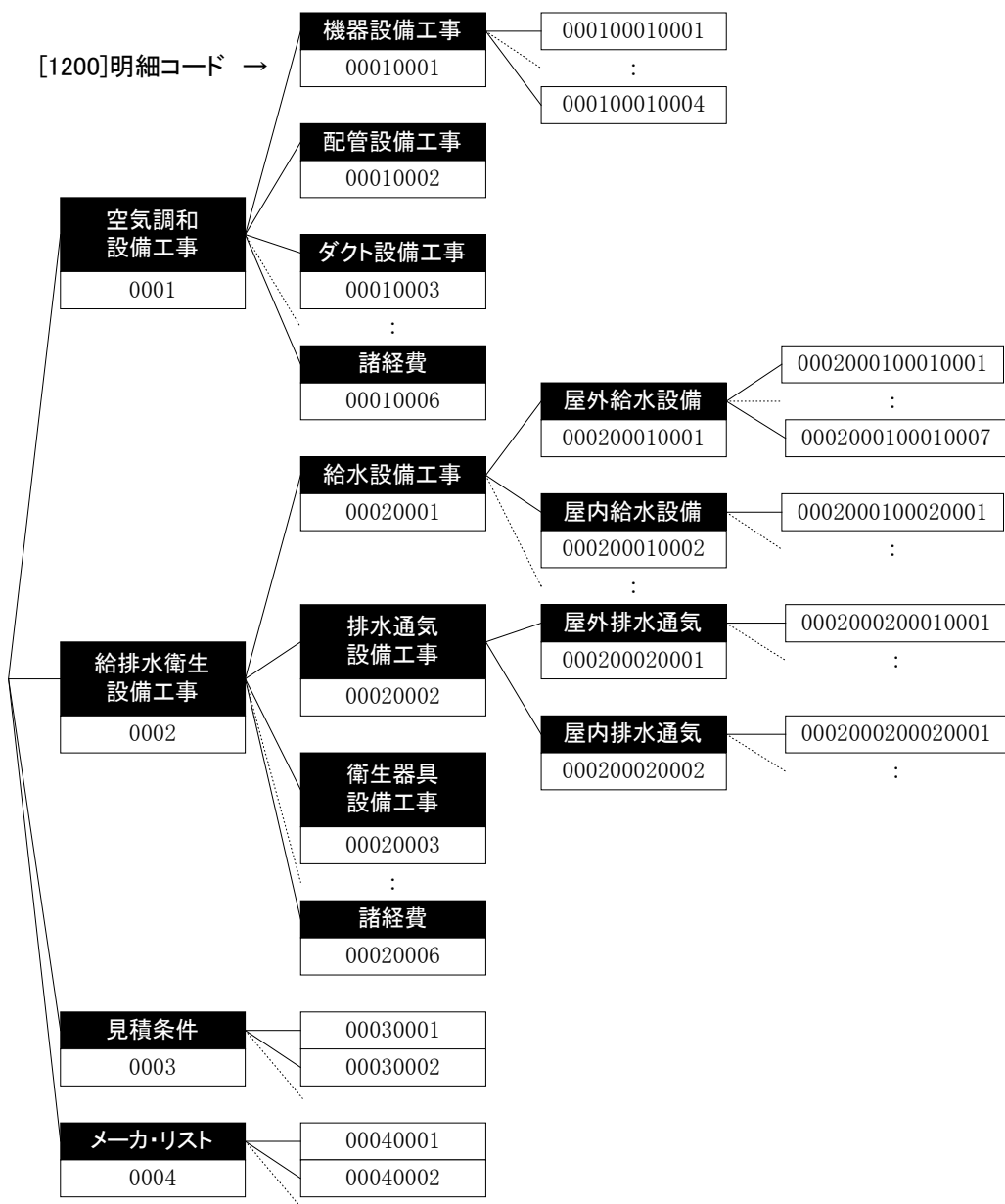


図7. 設備見積明細部分の階層構造の例

設備機器見積のメッセージ個別ルール

【例】設備機器見積明細部分の階層表現の例

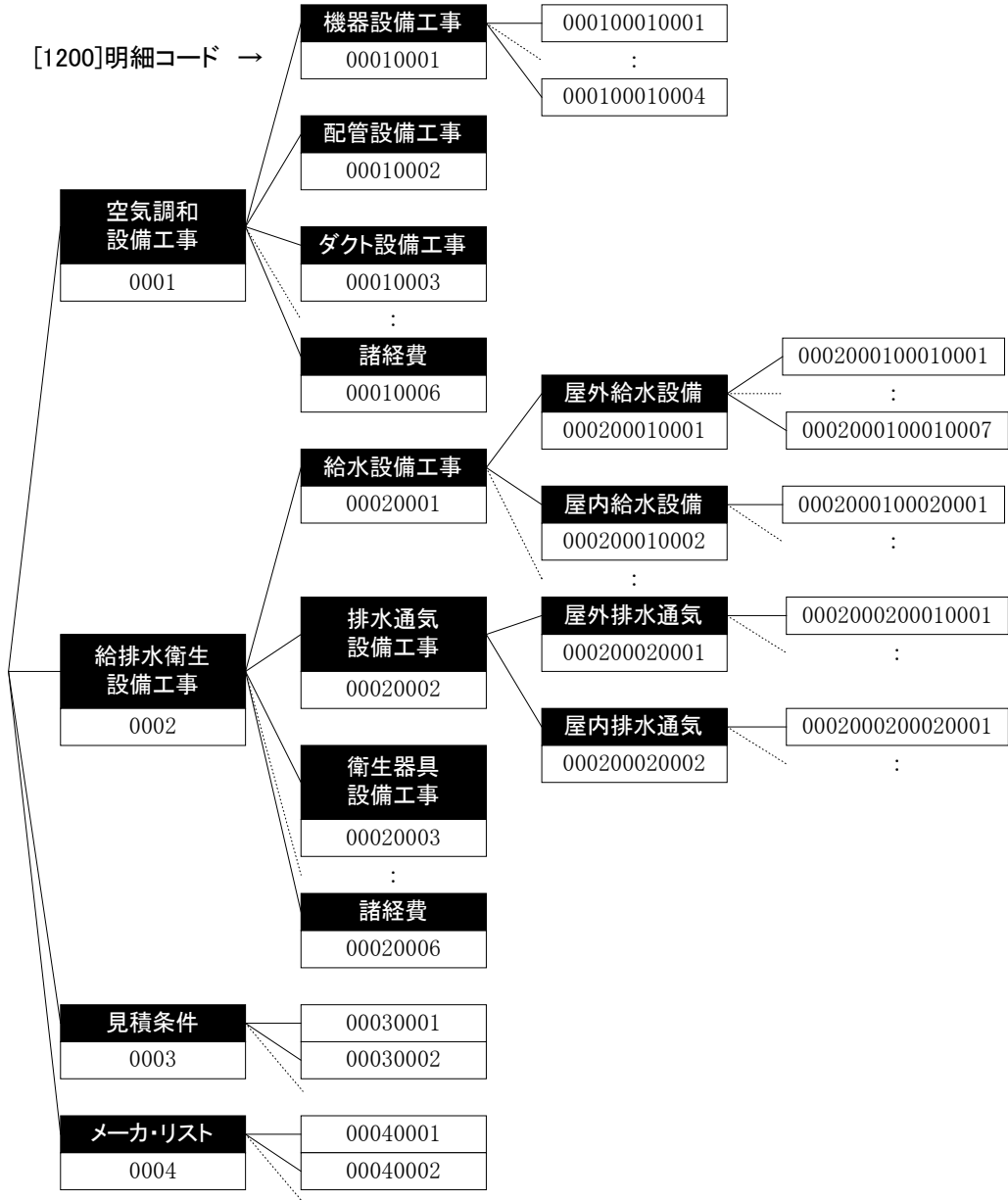


図8. 設備見積明細部分の階層表現の例

以下を設備機器見積メッセージの個別ルールとする

データ属性等における注意事項

- ・見積業務の回答メッセージ作成時には、見積業務の依頼メッセージの明細行の順序（[1200]明細コードおよび[1289]補助明細コードの順序）を損なわないよう留意する。

(2) [1288]明細データ属性コード

[1288]明細データ属性コード

[1200]明細コードと組み合わせて使用し、総括明細、内訳明細、見積条件などの明細データの属性を表すコード。

全メッセージ共通ルール

表1. 明細データ属性コード

明細行の種類	[1288] 明細データ属性コード	内容
総括明細行	0	明細書帳票の上位に記載する行。
見積条件等 見積条件行	1	明細書において専ら見積条件を記載する行。 明細書の金額計算には関係しない。
見積条件等 メーカー・リスト行	2	明細書において専ら使用する資機材等のメーカー名を 記載する行。明細書の金額計算には関係しない。
見積条件等 自由採番	3	他のいずれにも該当しない行。 明細書の金額計算には関係しない。
見積条件等 自由採番	4	同上
内訳明細行	5	明細書帳票の下位に記載する行。
エレメント親行	E	エレメントの親行。
別紙親行	B	別紙の親行。
代価親行	Q	代価の親行。

## 設備見積のメッセージ個別ルール

以下を設備見積メッセージの個別ルールとする。

### ① エレメント・別紙・代価の不使用

・エレメント、別紙、代価 ([1288]=E、B、Q) は使用しない。

### ② 総括明細行 ([1288]=「0」)に関するルール

総括明細行に対しては、以下の定義と用法上の注意を追加する。

(定義)

i・種目(棟別、工区別、屋外など)、科目(空気調和設備、給水設備、電灯設備、動力設備、昇降機設備など)、諸経費などを表す明細データを示す。

(用法上の注意)

ii・同一階層内の共通する属性が「0」、すなわち総括明細を表す階層で[1288]=「0」の場合、この階層に「5」は出現してはならない。なお見積条件等を示す「1、2、3、4」が存在することは許容する。「0」のみで明細データが構成されることもある。

iii・同一階層内の共通する属性が「0」の場合、その上の階層の共通する属性は「0」に限る。

iv・同一階層内の共通する属性が「0」でその下に階層を持つ場合は、その下の階層の共通する属性は「0」または「5」とする。

V・建設資機材を表す明細データが「0」となることはない。

### ③ 内訳明細行 ([1288]=「5」)に関するルール

内訳明細行に対しては、以下の定義と用法上の注意を追加する。

(定義)

i・建設資機材を表す明細データを示す。

ii・内訳明細行「5」の下に明細データを持つことはできない。

(用法上の注意)

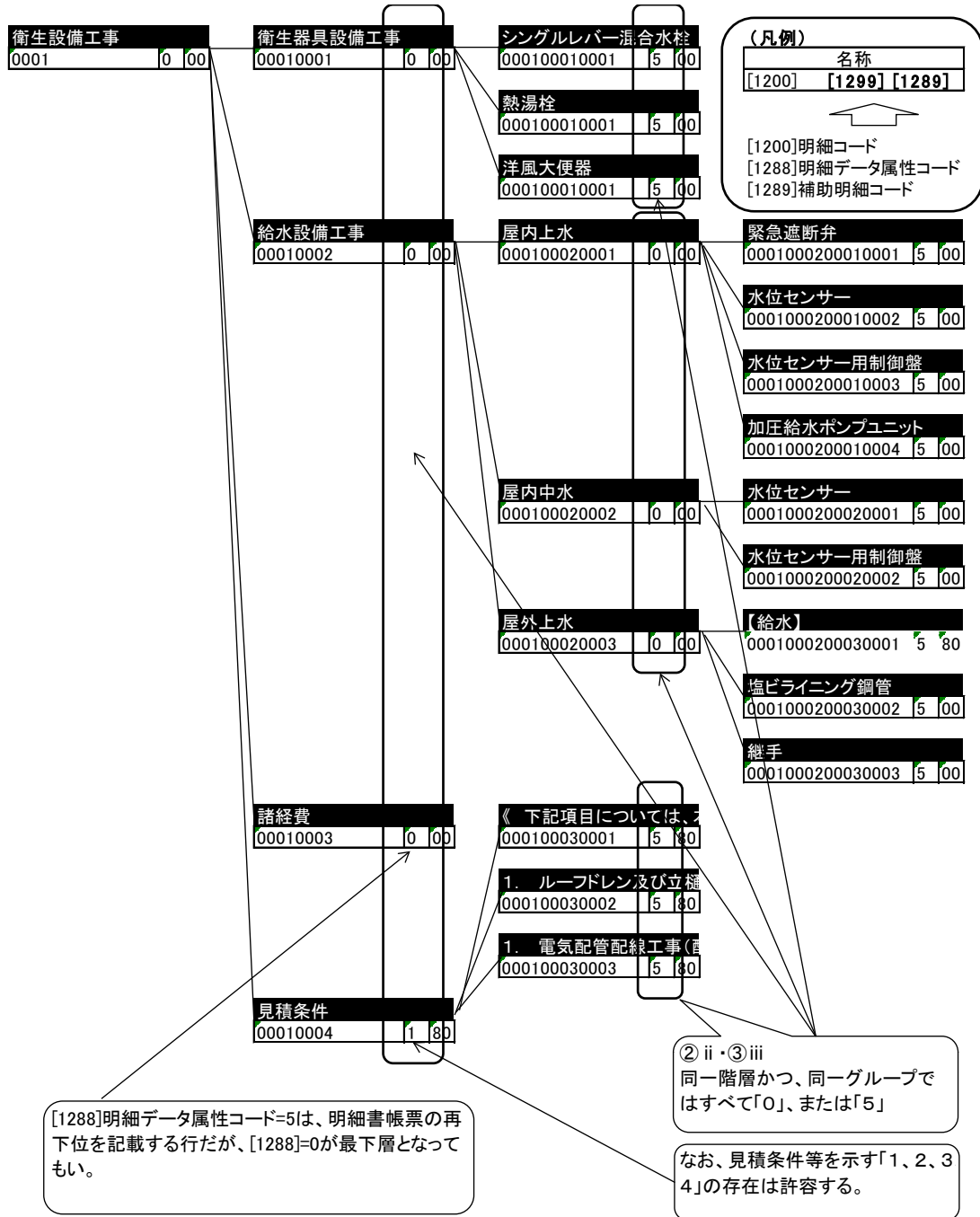
iii・同一階層内の共通する属性が「5」、すなわち内訳明細を表す階層で[1288]=「5」の場合、この階層に「0」は出現してはならない。なお見積条件等を示す「1、2、3、4」が存在することは許容する。「5」のみで明細データが構成されることもある。

## 【運用上の留意点】

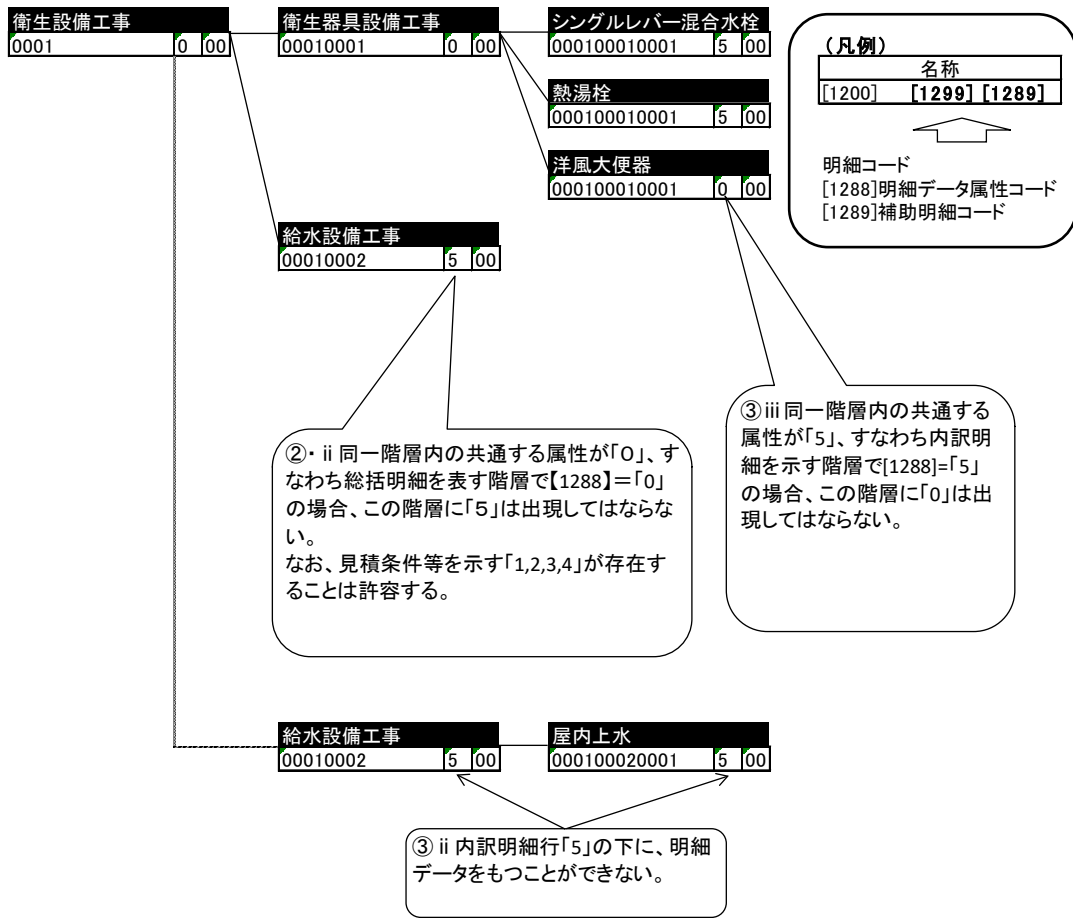
総括明細行「0」と内訳明細行「5」の混在について、運用上留意しておいた方がよい点を、「指針・参考資料 B. 参考資料 VI. CI-NET LiteS 実装規約における実際の運用上の留意点 12.総括明細行と内訳明細行の混在に係る留意点」に記載している。

④総括明細行([1288]=「0」)と内訳明細行([1288]=「5」)のサンプル

■ 正規表



■ 不正規(例) ② ii、③ iiiに適合していない場合



## 設備機器見積メッセージ個別ルール

以下を設備機器見積メッセージの個別ルールとする。

### ①エレメント・別紙・代価の不使用

・エレメント、別紙、代価 ([1288]=E、B、Q) は使用しない。

### ②総括明細行 ([1288]=「0」)に関するルール

総括明細行に対しては、以下の定義と用法上の注意を追加する。

(定義)

・種目(棟別、工区別、屋外など)、科目(空気調和設備、給水設備、電灯設備、動力設備、昇降機設備など)、諸経費などを表す明細データを示す。

(用法上の注意)

・同一階層内の共通する属性が「0」、すなわち総括明細を表す階層で[1288]=「0」の場合、この階層に「5」は出現してはならない。なお見積条件等を示す「1、2、3、4」が存在することは許容する。「0」のみで明細データが構成されることもある。

・同一階層内の共通する属性が「0」の場合、その上の階層の共通する属性は「0」に限る。

・同一階層内の共通する属性が「0」でその下に階層を持つ場合は、その下の階層の共通する属性は「0」または「5」とする。

・建設資機材を表す明細データが「0」となることはない。

### ③内訳明細行 ([1288]=「5」)に関するルール

内訳明細行に対しては、以下の定義と用法上の注意を追加する。

(定義)

・建設資機材を表す明細データを示す。

・内訳明細行「5」の下に1階層のみ「5」を持つことができる。

(用法上の注意)

・同一階層内の共通する属性が「5」、すなわち内訳明細を表す階層で[1288]=「5」の場合、この階層に「0」は出現してはならない。なお見積条件等を示す「1、2、3、4」が存在することは許容する。「5」のみで明細データが構成されることもある。

・同一階層内の共通する属性が「5」でその下に階層を持つ場合は、その下の階層の共通する属性は「5」に限る。

### 【運用上の留意点】

総括明細行「0」と内訳明細行「5」の混在について、運用上留意しておいた方がよい点を、「指針・参考資料 B. 参考資料 VI. CI-NET LiteS 実装規約における実際の運用上の留意点 12.総括明細行と内訳明細行の混在に係る留意点」に記載している。

### 【参考】

同一階層内の共通する属性が「5」でその下に階層を持つ場合は、その下の階層の共通する属性は「5」に限る。5(親)—5(子)は積みあがる。

(3) [1289]補助明細コード

[1289]補助明細コード  
 [1200]明細コードおよび[1288]明細データ属性コード と組み合わせて使用し、明細データの補助的な属性を表すコード。

全メッセージ共通ルール

表2. 補助明細コード

明細行の種類	[1289]補助明細コード	内容
本体行	00	(定義) ・種目・科目・諸経費・建設資機材等を記載する行である。 ・この行は金額集計の対象となる。  (用法上の注意) ・1階層下に明細データを持つことができる。 ・金額集計の考え方は以下の通りである。 - 1階層下の明細データに本体行が含まれる場合には、それら全ての本体行の金額の総和を、当該行の金額とする - 1階層下の明細データに本体行が含まれない場合には、当該本体行に記載されている金額を、当該行の金額とする
仕様行	01～49	(定義) ・本体行に記述しきれない仕様のみを記載する行である。 ・この行は金額集計の対象とならない。  (用法上の注意) ・仕様行は、その仕様にかかわる本体行が同一階層内に必ず出現しなくてはならない。 ※この本体行と仕様行は同一の[1200]明細コードを付与する。 ・同一の本体行の仕様を連続する複数行にわたって記載する場合、[1289]補助明細コードは01、02、03...という連番とすること。最大49行まで記載可能。連続しない場合は01とする。 ・1階層下に明細データを持つことはできない。
計行	90	(定義) ・金額の小計を記載する行である。 ・この行は金額集計の対象とならない。  (用法上の注意) ・1階層下に明細データを持つことはできない。
コメント行	80	(定義) ・上記のいずれにも該当しないコメントを記載する行。 ・この行は金額集計の対象とならない。  (用法上の注意) ・1階層下に明細データを持つことができる。



## 設備見積のメッセージ個別ルール

以下を設備見積メッセージの個別ルールとする。

①[1289]=80(コメント行)についての取り扱い

- [1288]=0(総括明細行)、または内訳明細行([1288]=5) の場合、1 階層下に明細データを持つことはできない。
- 見積条件等([1288]=1~4) の場合、1 階層下に明細データを持たない(フラット)表現とすることを推奨する。(理由:将来的には階層を持たない表現とする規約改訂を目指しているため)

②金額集計の考え方

- 本体行である総括明細本体行、内訳明細本体行は、それぞれ 1 階層上のレベルの総括明細本体行の金額集計の対象であり、[1222]単価および[1223]明細金額に適切な値が設定されなければならない。各本体行において、[1223]明細金額は、[1222]単価と[1218]明細数量の積に一致する。この場合の[1223]明細金額は小数点以下切り捨てとする。
- 総括明細本体行(A 行)の 1 階層下の明細データに本体行が含まれる場合は、それら全ての本体行の[1223]明細金額の総和を、当該行(A 行)の[1222]単価に設定する。

$$\Sigma ([1223]明細金額)$$

- 総括明細本体行(A 行)の 1 階層下の明細データに本体行が含まれない場合には、当該行(A 行)の見積対象の金額を当該行(A 行)の[1222]単価に設定する。
- 全体情報部分(鑑)の[1088]明細金額計は、第一レベル([1200]明細コード=0001~9999)の全ての本体行の[1223]明細金額の総和である。

$$\Sigma ([1223]明細金額)$$

③明細データ属性コードと補助明細コードの組合せ

[1288]明細データ属性コード、[1289]補助明細コードの組合せによって明細行の種類が特定される。次表に、両者の組合せによる明細行の種類を表す。

表3. [1288]明細データ属性コードと[1289]補助明細コードの組合せによる明細行種類の表現

明細行の種類		[1288]	[1289]	備考
総括明細	総括明細本体行： 総括明細行のうち、金額集計の対象となる行。	0	00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができる。</li> <li>・この行は金額集計の対象となるため、金額・数量・単位・単価を指定しなければならない。</li> </ul>
	総括明細仕様行： 総括明細本体行の資機材等の仕様のみを記載する行。	0	01～49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「内訳明細仕様行」参照。</li> </ul>
	総括明細コメント行： 総括明細行のうち、上記のいずれにも該当しないコメント等を記載する行。	0	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
見積条件等	見積条件	1	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
	メーカー・リスト	2	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
	自由採番	3	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
	自由採番	4	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
内訳明細	内訳明細本体行： 内訳明細行のうち、金額集計の対象となる行。	5	00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1階層下に明細データを持つことができる。</li> <li>・この行は金額集計の対象となるため、金額・数量・単位・単価を指定しなければならない。</li> </ul>
	内訳明細仕様行： 内訳明細本体行の資機材等の仕様のみを記載する行。本体行だけで仕様を記述できない場合に使用する。金額集計の対象とならない。	5	01～49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この行の[1200]明細コードは、仕様記述対象となる内訳明細本体行と同一とすること。</li> <li>・連続する複数行にわたって仕様を記載する場合、[1289]補助明細コードは 01, 02, 03... という連番とすること。最大 49 行まで記載可能。連続しない場合は 01 とする。</li> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
	内訳明細コメント行： 内訳明細行のうち、本体行、仕様行のいずれにも該当しない行。金額集計の対象とならない。	5	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の「内訳明細計行」の算定方法で得られない小計、中計等を記載する行は、内訳明細コメント行とする。</li> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>
明細(計行)	内訳明細計行： 内訳明細行のうち、金額の小計を表す行。金額集計の対象とならない。	5	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>・任意の位置に記載して良い。</li> <li>・同一階層内で、[1200]明細コード順にみた直前の内訳明細計行から自行の直前までに存在する明細本体行（総括明細本体行と内訳明細本体行）を金額集計対象とすること。同一階層内で自行の直前までに内訳明細計行が無い場合は、同一階層内の先頭から自行の直前までの明細本体行を金額集計範囲とすること。</li> <li>・「計行」は見積金額算定対象外であるため、この行の値は受信者が再計算により確認することを推奨する。</li> <li>・1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>

### 【運用上の留意点】

明細データ属性コードと補助明細コードの組合せによる明細行種類の取り扱いについて、運用上留意しておいた方がよい点を、「指針・参考資料 B. 参考資料 VI. CI-NET LiteS 実装規約における実際の運用上の留意点 13.内訳明細計行に係る留意点」に記載している。

#### ④明細データのサンプル

(a)基本的な明細データの構成:

(a-1)明細構造順に作成したデータ(仕様行無しの簡略例) → サンプル(a-1)参照

(a-2)帳票出力順に作成したデータ(仕様行無しの簡略例) → サンプル(a-2)参照

- ・明細行を帳票出力順に作成する場合、改ページに該当する箇所の先頭にページ見出し(総括明細本体行に既に記載している内容を、読み易さ等のために再度表記するもの)を記載する例があるが、こうした行の有無はデータ作成側の任意とする。
- ・ページ見出しを記載する場合、その行はコメント行([1289]=80)とする。
- ・またこの場合、[1200]明細コードは、サンプル(a-2)のように末尾 4 桁を見出し行用の一つとり、以降の明細行は末尾 4 桁を 1 ずつ繰り下げる。

#### 【注意事項】

- ・帳票出力順に作成したデータは、[1200]明細コードでソートすることで明細構造順に再現可能であるのが一般的である。(※内訳明細仕様行を含む場合は、ソートの第 2 キーとして[1289]補助明細コードを加える)。
- ・上記でソートしたデータは、[1288]明細データ属性コードを第 1 キー、[1200]明細コードを第 2 キーとしてソートすることで、元の帳票出力順に再現できることが一般的である。

(b)仕様行、計行、コメント行の記載方法 → サンプル(b)参照

表4. 明細構造順に作成した基本的な明細データの構成  
(仕様行無しの簡略例)

	[1200] 明細コード	[1288] 属性C	[1289] 補助C	[1213] 品名・名称	[1214] 規格・仕様・摘要
総括本体	0001	0	00	1.空気調和設備工事	
総括本体	00010001	0	00	1.機器設備工事	
内訳本体	000100010001	5	00	吸収式冷温水発生機	1.機器設備～諸経費の明細金額の和が、空調工事の単価
"	000100010002	5	00	冷温水ポンプ	RB-1 CHP-1
"	000100010003	5	00	空気調和機	AHU-1
"	000100010004	5	00	現場雑費	吸収式～現場雑費の明細金額の和が、機器設備工事の単価
総括本体	00010002	0	00	2.配管設備工事	
"	00010003	0	00	3.ダクト設備工事	
"	00010004	0	00	4.換気設備工事	
"	00010005	0	00	5.自動制御設備工事	内訳を持たなくとも、金額計算を正しく表現するために[1289]=00
"	00010006	0	00	諸経費	
総括本体	0002	0	00	2.給排水衛生設備工事	
総括本体	00020001	0	00	1.給水設備工事	1.給水設備～諸経費の明細金額の和が、この行の単価
総括本体	000200010001	0	00	1.屋外給水設備工事	
内訳本体	0002000100010001	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 25A
"	0002000100010002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 32A
"	0002000100010003	5	00	同上継ぎ手類	
"	0002000100010004	5	00	消耗品雑材料	
"	0002000100010005	5	00	配管工事	
"	0002000100010006	5	00	現場雑費	
総括本体	000200010002	0	00	2.屋内給水設備工事	
内訳本体	0002000100020001	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 25A
"	0002000100020002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 32A
"	0002000100020003	5	00	同上継ぎ手類	
総括本体	00020002	0	00	2.排水通気設備工事	
総括本体	000200020001	0	00	1.屋外排水通気設備工事	
"	000200020002	0	00	2.屋内排水通気設備工事	
総括本体	00020003	0	00	3.衛生器具設備工事	
総括本体	00020004	0	00	4.ガス設備工事	先頭行の[1200]は4桁、以降は4桁連番を追加
総括本体	00020005	0	00	5.消火設備工事	
総括本体	00020006	0	00	諸経費	
見積条件	0003	1	80	御見積条件	
"	00030001	1	80	次の各項は別途とし本見積には含みません	
"	00030002	1	80	仮設事務所、詰所、倉庫および加工場の設置	
"	00030003	1	80	電力工事、上下水道の維持管理および使用料金	
"	00030004	1	80	本電源受電後の電気料金(基本および使用料金)	
メーカーリスト	0004	2	80	見積採用メーカーリスト	
"	00040001	2	80	以下のメーカーにて見積いたしました。	
"	00040002	2	80	吸収式冷温水器	〇〇重工
"	00040003	2	80	ポンプ	□□製作所
"	00040004	2	80	空気調和機	△△重工

表5. サンプル(a-2) 帳票出力順に作成した基本的な明細データの構成  
(仕様行無しの簡略例)

	[1200] 明細コード	[1288] 属性C	[1289] 補助C	[1213] 品名・名称	[1214] 規格・仕様・摘要
総括本体	0001	0	00	1.空気調和設備工事	
〃	00010001	0	00	1.機器設備工事	
〃	00010002	0	00	2.配管設備工事	
〃	00010003	0	00	3.ダクト設備工事	
〃	00010004	0	00	4.換気設備工事	
〃	00010005	0	00	5.自動制御設備工事	
〃	00010006	0	00	諸経費	
総括本体	0002	0	00	2.給排水衛生設備工事	
〃	00020001	0	00	1.給水設備工事	
〃	000200010001	0	00	1.屋外給水設備工事	
〃	000200010002	0	00	2.屋内給水設備工事	
総括本体	00020002	0	00	2.排水通気設備工事	
〃	000200020001	0	00	1.屋外排水通気設備工事	
〃	000200020002	0	00	2.屋内排水通気設備工事	
総括本体	00020003	0	00	3.衛生器具設備工事	
〃	00020004	0	00	4.ガス設備工事	
〃	00020005	0	00	5.消火設備工事	
〃	00020006	0	00	諸経費	
見積条件	0003	1	80	御見積条件	
〃	00030001	1	80	次の各項は別途とし本見積には含みません	
〃	00030002	1	80	仮設事務所、詰所、倉庫および加工場の設置	
〃	00030003	1	80	電力工事、上下水道の維持管理および使用料金	
〃	00030004	1	80	本電源受電後の電気料金(基本および使用料金)	
メーカーリスト	0004	2	80	見積採用メーカーリスト	
〃	00040001	2	80	以下のメーカーにて見積いたしました。	
〃	00040002	2	80	吸収式冷温水器 ○○重工	
〃	00040003	2	80	ポンプ □□製作所	
〃	00040004	2	80	空気調和機 △△重工	
見出し	000100010001	5	80	1.空気調和設備工事	
〃	000100010002	5	80	1.機器設備工事	
内訳本体	000100010003	5	00	吸収式冷温水発生器	RB-1
〃	000100010004	5	00	冷温水ポンプ	CHP-1
〃	000100010005	5	00	空気調和機	AHU-1
〃	000100010006	5	00	現場雑費	
見出し	0002000100010001	5	80	2.給排水衛生設備工事	
〃	0002000100010002	5	80	1.給水設備工事	
〃	0002000100010003	5	80	1.屋外給水設備工事	
内訳本体	0002000100010004	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 25A
〃	0002000100010005	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 32A
〃	0002000100010006	5	00	同上継ぎ手類	
〃	0002000100010007	5	00	消耗品雑材料	
〃	0002000100010008	5	00	配管工事	
〃	0002000100010009	5	00	現場雑費	
見出し	0002000100020001	5	80	2.屋内給水設備工事	
〃	0002000100020002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 25A
内訳本体	0002000100020003	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 32A
〃	0002000100020004	5	00	同上継ぎ手類	

帳票印刷順の場合ページ見出し行を記載することがある。この記載有無は、データ作成側の任意。

見出し行はコメント行として扱う。

内訳明細行の[1200]明細コードの末尾4桁は、見出し行を挿入した分、サンプル(a-1)に較べて繰り下げる。

表6. サンプル(b) 仕様行、計行、コメント行を含む明細データの構成

	[1200] 明細コード	[1288] 属性C	[1289] 補助C	[1213] 品名・名称	[1214] 規格・仕様・摘要
総括本体	0001	0	00	1.空気調和設備工事	
総括本体	00010001	0	00	1.機器設備工事	
内訳本体	000100010001	5	00	吸収式冷温水発生器	RB-1
内訳仕様	000100010001	5	01		ガス焚 冷却塔一体型 耐塩仕様
"	000100010001	5	02		冷却能力75RT 加熱能力207,000kcal/h
"	000100010001	5	03		冷水750L/min 12→7度C
"	000100010001	5	04		温水750L/min 50→55度C
"	000100010001	5	05		冷温水ポンプ 7.5kw
"	000100010001	5	06		冷却水ポンプ システム組込
"	000100010001	5	07		燃料消費料 都市ガス7C 54Nm3/h
"	000100010001	5	08		感震器 遠隔操作盤 防振ゴム 他一式共
内訳本体	000100010002	5	00	冷温水ポンプ	CHP-1
内訳仕様	000100010002	5	01		型式 片吸込渦巻型
"	000100010002	5	02		65φ×430L/min×15m×2.2kw (3φ-200V)
"	000100010002	5	03		防振装置共
内訳本体	000100010003	5	00	空気調和機	AHU-1
内訳仕様	000100010003	5	01		型式 水平型
内訳本体	000100010004	5	00	現場雑費	
総括本体	00010002	0	00	2.配管設備工事	
"	00010003	0	00	3.ダクト設備工事	
"	00010004	0	00	4.換気設備工事	
"	00010005	0	00	5.自動制御設備工事	
"	00010006	0	00	諸経費	
総括本体	0002	0	00	2.給排水衛生設備工事	
総括本体	00020001	0	00	1.給水設備工事	
内訳本体	0002000100010001	5	00	1.屋外給水設備工事	
"	0002000100010002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 25A
"	0002000100010002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 32A
"	0002000100010003	5	00	同上継ぎ手類	
内訳計	0002000100010004	5	90	以上 材料小計	
内訳本体	0002000100010005	5	00	消耗品雑材料	
"	0002000100010006	5	00	配管工事	
"	0002000100010007	5	00	現場雑費	
内訳計	0002000100010008	5	90	以上小計	
内訳コメ	0002000100010009	5	80	屋外給水設備工事計	内訳明細計行のルールに合致しない計などは、コメント行とする。
総括本体	000200010002	0	00	2.屋内給水設備工事	
内訳本体	0002000100020001	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 25A
"	0002000100020002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 32A
内訳コメ	0002000100020003	5	80	塩ビライニング鋼管は○型にて積算しています。	
内訳本体	0002000100020004	5	00	同上継ぎ手類	
総括本体	00020002	0	00	2.排水通気設備工事	
"	000200020001	0	00	1.屋外排水通気設備工事	
"	000200020002	0	00	2.屋内排水通気設備工事	
総括本体	00020003	0	00	3.衛生器具設備工事	
"	00020004	0	00	4.ガス設備工事	
"	00020005	0	00	5.消火設備工事	
"	00020006	0	00	諸経費	

## 設備機器見積のメッセージ個別ルール

以下を設備機器見積メッセージの個別ルールとする。

①[1289]=80(コメント行)についての取り扱い

・1 階層下に明細データを持つことはできない。

②金額集計の考え方

・本体行である総括明細本体行、内訳明細本体行は、それぞれ 1 階層上のレベルの総括明細本体行の金額集計の対象であり、[1222]単価および[1223]明細金額に適切な値が設定されなければならない。各本体行において、[1223]明細金額は、[1222]単価と[1218]明細数量の積に一致する。この場合の[1223]明細金額は小数点以下切り捨てとする。

・総括明細本体行(A 行)の 1 階層下の明細データに本体行が含まれる場合は、それら全ての本体行の[1223]明細金額の総和を、当該行(A 行)の[1222]単価に設定する。

$$\Sigma ([1223]明細金額)$$

・総括明細本体行(A 行)の 1 階層下の明細データに本体行が含まれない場合には、当該行(A 行)の見積対象の金額を当該行(A 行)の[1222]単価に設定する。

・全体情報部分(鑑)の[1088]明細金額計は、第一レベル([1200]明細コード=0001~9999)の全ての本体行の[1223]明細金額の総和である。

$$\Sigma ([1223]明細金額)$$

③明細データ属性コードと補助明細コードの組合せ

[1288]明細データ属性コード、[1289]補助明細コードの組合せによって明細行の種類が特定される。次表に、両者の組合せによる明細行の種類を表す。さらに、[1200]明細コードと組み合わせた明細データ構造表現のサンプルを示す。

表7. [1288]明細データ属性コードと[1289]補助明細コードの組合せによる明細行種類の表現

明細行の種類		[1288]	[1289]	備考
総括明細	総括明細本体行： 総括明細行のうち、金額集計の対象となる行。	0	00	・1階層下に明細データを持つことができる。
	総括明細仕様行： 総括明細本体行の資機材等の仕様のみを記載する行。	0	01～49	・「内訳明細仕様行」参照。
	総括明細コメント行： 総括明細行のうち、上記のいずれにも該当しないコメント等を記載する行。	0	80	・1階層下に明細データを持つことができない。
見積条件等	見積条件	1	80	・1階層下に明細データを持つことができない。
	メーカーリスト	2	80	・1階層下に明細データを持つことができない。
	自由採番	3	80	・1階層下に明細データを持つことができない。
	自由採番	4	80	・1階層下に明細データを持つことができない。
内訳明細	内訳明細本体行： 内訳明細行のうち、金額集計の対象となる行。	5	00	・1階層下に明細データを持つことができる。
	内訳明細仕様行： 内訳明細本体行の資機材等の仕様のみを記載する行。本体行だけで仕様を記述できない場合に使用する。金額集計の対象とならない。	5	01～49	・この行の[1200]明細コードは、仕様記述対象となる内訳明細本体行と同一とすること。 ・連続する複数行にわたって仕様を記載する場合、[1289]補助明細コードは 01, 02, 03...という連番とすること。最大 49 行まで記載可能。連続しない場合は 01 とする。 ・1階層下に明細データを持つことができない。
	内訳明細計行： 内訳明細行のうち、金額の小計を表す行。金額集計の対象とならない。	5	90	・任意の位置に記載して良い。 ・同一階層内で、[1200]明細コード順にみた直前の内訳明細計行から自行の直前までに存在する内訳明細本体行を金額集計対象とすること。同一階層内で前に内訳明細計行が無い場合は、同一階層内の先頭から自行の直前までを金額集計範囲とすること。 ・「計行」は見積金額算定対象外であるため、この行の値は受信者が再計算により確認することを推奨する。 ・1階層下に明細データを持つことができない。
	内訳明細コメント行： 内訳明細行のうち、本体行、仕様行のいずれにも該当しない行。金額集計の対象とならない。	5	80	・上記の「内訳明細計行」の算定方法で得られない小計、中計等を記載する行は、内訳明細コメント行とする。 ・1階層下に明細データを持つことができない。



明細行の種類		[1288]	[1289]	備考
明細 (計行)	内訳明細計行： 内訳明細行のうち、金額の小計を表す行。金額集計の対象とならない。	5	90	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 任意の位置に記載して良い。</li> <li>・ 同一階層内で、[1200]明細コード順にみた直前の内訳明細計行から自行の直前までに存在する明細本体行（総括明細本体行と内訳明細本体行）を金額集計対象とすること。同一階層内で自行の直前までに内訳明細計行が無い場合は、同一階層内の先頭から自行の直前までの明細本体行を金額集計範囲とすること。</li> <li>・ 「計行」は見積金額算定対象外であるため、この行の値は受信者が再計算により確認することを推奨する。</li> <li>・ 1階層下に明細データを持つことができない。</li> </ul>

### 【運用上の留意点】

明細データ属性コードと補助明細コードの組合せによる明細行種類の取り扱いについて、運用上留意しておいた方がよい点を、「指針・参考資料 B. 参考資料 VI. CI-NET LiteS 実装規約における実際の運用上の留意点 13.内訳明細計行に係る留意点」に記載している。

#### ④明細データのサンプル

(a)基本的な明細データの構成:

(a-1)明細構造順に作成したデータ(仕様行無しの簡略例) → サンプル(a-1)参照

(a-2)帳票出力順に作成したデータ(仕様行無しの簡略例) → サンプル(a-2)参照

- ・明細行を帳票出力順に作成する場合、改ページに該当する箇所の先頭にページ見出し(総括明細本体行に既に記載している内容を、読み易さ等のために再度表記するもの)を記載する例があるが、こうした行の有無はデータ作成側の任意とする。
- ・ページ見出しを記載する場合、その行はコメント行([1289]=80)とする。
- ・またこの場合、[1200]明細コードは、サンプル(a-2)のように末尾 4 桁を見出し行用に一つとり、以降の明細行は末尾 4 桁を 1 ずつ繰り下げる。

### 【注意事項】

- ・帳票出力順に作成したデータは、[1200]明細コードでソートすることで明細構造順に再現可能であるのが一般的である。(※内訳明細仕様行を含む場合は、ソートの第 2 キーとして[1289]補助明細コードを加える)。
- ・上記でソートしたデータは、[1288]明細データ属性コードを第 1 キー、[1200]明細コードを第 2 キーとしてソートすることで、元の帳票出力順に再現できることが一般的である。

(b)仕様行、計行、コメント行の記載方法 → サンプル(b)参照

表8. サンプル(a-1) 明細構造順に作成した基本的な明細データの構成  
(仕様行無しの簡略例)

	[1200] 明細コード	[1288] 属性C	[1289] 補助C	[1213] 品名・名称	[1214] 規格・仕様・摘要
総括本体	0001	0	00	1.空気調和設備工事	
総括本体	00010001	0	00	1.機器設備工事	1.機器設備～諸経費の明細金額の和
内訳本体	000100010001	5	00	吸収式冷温水発生機	RB-1 CHP-1 AHU-1 が、空調工事の単価
"	000100010002	5	00	冷温水ポンプ	
"	000100010003	5	00	空気調和機	
"	000100010004	5	00	現場雑費	吸収式～現場雑費の明細金額の和が、機器設備工事の単価
総括本体	00010002	0	00	2.配管設備工事	
"	00010003	0	00	3.ダクト設備工事	
"	00010004	0	00	4.換気設備工事	
"	00010005	0	00	5.自動制御設備工事	内訳を持たなくとも、金額計算を正しく表現するために[1289]=00
"	00010006	0	00	諸経費	
総括本体	0002	0	00	2.給排水衛生設備工事	
総括本体	00020001	0	00	1.給水設備工事	1.給水設備～諸経費の明細金額の和が、この行の単価
総括本体	000200010001	0	00	1.屋外給水設備工事	
内訳本体	0002000100010001	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 25A
"	0002000100010002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 32A
"	0002000100010003	5	00	同上継ぎ手類	
"	0002000100010004	5	00	消耗品雑材料	
"	0002000100010005	5	00	配管工事	
"	0002000100010006	5	00	現場雑費	
総括本体	000200010002	0	00	2.屋内給水設備工事	
内訳本体	0002000100020001	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 25A
"	0002000100020002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 32A
"	0002000100020003	5	00	同上継ぎ手類	
総括本体	00020002	0	00	2.排水通気設備工事	
総括本体	000200020001	0	00	1.屋外排水通気設備工事	
"	000200020002	0	00	2.屋内排水通気設備工事	
総括本体	00020003	0	00	3.衛生器具設備工事	
総括本体	00020004	0	00	4.ガス設備工事	先頭行の[1200]は4桁、以降は4桁連番を追加
総括本体	00020005	0	00	5.消火設備工事	
総括本体	00020006	0	00	諸経費	
見積条件	0003	1	80	御見積条件	
"	00030001	1	80	次の各項は別途とし本見積には含みません	
"	00030002	1	80	仮設事務所、詰所、倉庫および加工場の設置	
"	00030003	1	80	電力工事、上下水道の維持管理および使用料金	
"	00030004	1	80	本電源受電後の電気料金(基本および使用料金)	
メーカーリス	0004	2	80	見積採用メーカーリスト	
"	00040001	2	80	以下のメーカーにて見積いたしました。	
"	00040002	2	80	吸収式冷温水器	〇〇重工
"	00040003	2	80	ポンプ	□□製作所
"	00040004	2	80	空気調和機	△△重工

表9. サンプル(a-2) 帳票出力順に作成した基本的な明細データの構成  
(仕様行無しの簡略例)

	[1200] 明細コード	[1288] 属性C	[1289] 補助C	[1213] 品名・名称	[1214] 規格・仕様・摘要
総括本体	0001	0	00	1.空気調和設備工事	
"	00010001	0	00	1.機器設備工事	
"	00010002	0	00	2.配管設備工事	
"	00010003	0	00	3.ダクト設備工事	
"	00010004	0	00	4.換気設備工事	
"	00010005	0	00	5.自動制御設備工事	
"	00010006	0	00	諸経費	
総括本体	0002	0	00	2.給排水衛生設備工事	
"	00020001	0	00	1.給水設備工事	
"	000200010001	0	00	1.屋外給水設備工事	
"	000200010002	0	00	2.屋内給水設備工事	
総括本体	00020002	0	00	2.排水通気設備工事	
"	000200020001	0	00	1.屋外排水通気設備工事	
"	000200020002	0	00	2.屋内排水通気設備工事	
総括本体	00020003	0	00	3.衛生器具設備工事	
"	00020004	0	00	4.ガス設備工事	
"	00020005	0	00	5.消火設備工事	
"	00020006	0	00	諸経費	
見積条件	0003	1	80	御見積条件	
"	00030001	1	80	次の各項は別途とし本見積には含みません	
"	00030002	1	80	仮設事務所、詰所、倉庫および加工場の設置	
"	00030003	1	80	電力工事、上下水道の維持管理および使用料金	
"	00030004	1	80	本電源受電後の電気料金(基本および使用料金)	
メーカーリスト	0004	2	80	見積採用メーカーリスト	
"	00040001	2	80	以下のメーカーにて見積いたしました。	
"	00040002	2	80	吸収式冷温水器 ○○重工	
"	00040003	2	80	ポンプ □□製作所	
"	00040004	2	80	空気調和機 △△重工	
見出し	000100010001	5	80	1.空気調和設備工事	
"	000100010002	5	80	1.機器設備工事	
内訳本体	000100010003	5	00	吸収式冷温水発生器	RB-1
"	000100010004	5	00	冷温水ポンプ	CHP-1
"	000100010005	5	00	空気調和機	AHU-1
"	000100010006	5	00	現場雑費	
見出し	0002000100010001	5	80	2.給排水衛生設備工事	
"	0002000100010002	5	80	1.給水設備工事	
"	0002000100010003	5	80	1.屋外給水設備工事	
内訳本体	0002000100010004	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 25A
"	0002000100010005	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 32A
"	0002000100010006	5	00	同上継ぎ手類	
"	0002000100010007	5	00	消耗品雑材料	
"	0002000100010008	5	00	配管工事	
"	0002000100010009	5	00	現場雑費	
見出し	0002000100020001	5	80	2.屋内給水設備工事	
内訳本体	0002000100020002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 25A
"	0002000100020003	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 32A
"	0002000100020004	5	00	同上継ぎ手類	

帳票印刷順の場合ページ見出し行を記載することがある。この記載有無は、データ作成側の任意。

見出し行はコメント行として扱う。

内訳明細行の[1200]明細コードの末尾4桁は、見出し行を挿入した分、サンプル(a-1)に較べて繰り下げる。

表10. サンプル(b) 仕様行、計行、コメント行を含む明細データの構成

	[1200] 明細コード	[1288] 属性C	[1289] 補助C	[1213] 品名・名称	[1214] 規格・仕様・摘要
総括本体	0001	0	00	1.空気調和設備工事	
総括本体	00010001	0	00	1.機器設備工事	
内訳本体	000100010001	5	00	吸収式冷温水発生器	RB-1
内訳仕様	000100010001	5	01		ガス焚 冷却塔一体型 耐塩仕様
"	000100010001	5	02		冷却能力75RT 加熱能力207,000kcal/h
"	000100010001	5	03		冷水750L/min 12→7度C
"	000100010001	5	04		温水750L/min 50→55度C
"	000100010001	5	05		冷温水ポンプ 7.5kw
"	000100010001	5	06		冷却水ポンプ システム組込
"	000100010001	5	07		燃料消費料 都市ガス7C 54Nm3/h
"	000100010001	5	08		感震器 遠隔操作盤 防振ゴム 他一式共
内訳本体	000100010002	5	00	冷温水ポンプ	CHP-1
内訳仕様	000100010002	5	01		型式 片吸込渦巻型
"	000100010002	5	02		65φ×430L/min×15m×2.2kw (3φ-200V)
"	000100010002	5	03		防振装置共
内訳本体	000100010003	5	00	空気調和機	AHU-1
内訳仕様	000100010003	5	01		型式 水平型
内訳本体	000100010004	5	00	現場雑費	
総括本体	00010002	0	00	2.配管設備工事	
"	00010003	0	00	3.ダクト設備工事	
"	00010004	0	00	4.換気設備工事	
"	00010005	0	00	5.自動制御設備工事	
"	00010006	0	00	諸経費	
総括本体	0002	0	00	2.給排水衛生設備工事	
総括本体	00020001	0	00	1.給水設備工事	
内訳本体	0002000100010001	5	00	1.屋外給水設備工事	
"	0002000100010002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 25A
"	0002000100010002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VD) 32A
"	0002000100010003	5	00	同上継ぎ手類	
内訳計	0002000100010004	5	90	以上 材料小計	
内訳本体	0002000100010005	5	00	消耗品雑材料	
"	0002000100010006	5	00	配管工事	
"	0002000100010007	5	00	現場雑費	
内訳計	0002000100010008	5	90	以上小計	
内訳コメ	0002000100010009	5	80	屋外給水設備工事計	内訳明細計行のルールに合致しない計などは、コメント行とする。
総括本体	000200010002	0	00	2.屋内給水設備工事	
内訳本体	0002000100020001	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 25A
"	0002000100020002	5	00	水道用塩ビライニング鋼管	VLP(VA) 32A
内訳コメ	0002000100020003	5	80	塩ビライニング鋼管は○型にて積算しています。	
内訳本体	0002000100020004	5	00	同上継ぎ手類	
総括本体	00020002	0	00	2.排水通気設備工事	
"	000200020001	0	00	1.屋外排水通気設備工事	
"	000200020002	0	00	2.屋内排水通気設備工事	
総括本体	00020003	0	00	3.衛生器具設備工事	
"	00020004	0	00	4.ガス設備工事	
"	00020005	0	00	5.消火設備工事	
"	00020006	0	00	諸経費	

## 5. 明細部分の留意点

「CI-NET LiteS 実装規約 Ver2.1 ad.7 指針・参考資料」より抜粋

### 5-1 総括明細行と内訳明細行の混在に係る留意点

#### (1) 背景・問題点

明細行の[1288]明細データ属性コードの記載に関して、同一階層内における総括明細行（[1288]=0）と内訳明細行（[1288]=5）の混在というものが考えられる。現状の実装規約においては、両者の混在について、特に禁止はしていないが、以下のような点を考慮すると、混在を避ける運用が求められる。

- ① 同一階層における明細表現の統一を図ることができること。
- ② 設備見積、設備機器見積の両業務メッセージと同様、総括明細行と内訳明細行の混在がなくなること。
- ③ 厳格な規約化とすると、実装上現状のシステムに与える問題が大きく、運用レベルで運用上の統一を図っていくことが適当と考えられること。

#### (2) 検討結果

上記のような課題に対して、以下のように同一階層には総括本体行「0」と内訳本体行「5」が混在しないような運用とする旨の補足の解説を追加することとした。具体的には以下のような内容である。

#### ■総括明細行（[1288]=0）と内訳明細行（[1288]=5）の混在に係る運用上の留意点

今後、明細行のデータを作成するにあたっては、同一階層内で総括明細行（[1288]=0）と内訳明細行（[1288]=5）が混在することのないようにする。

上記の内容の具体的なイメージを示すと、以下のようになる。

明細行種類	[1200]明細コード	[1288]明細別データ属性コード	[1289]補助明細コード	品名	仕様	数量	単位	単価	金額
内訳明細	0001	5	80	鉄筋工事					
総括明細	0002	0	00	内訳別紙(1) 異形鉄筋	SD295A	1	式	0	3,534,000
総括明細	0003	0	00	内訳別紙(2) 異形鉄筋	SD345	1	式	0	1,299,000
内訳明細	0004	5	00	加工組立費		155	t	40,000	6,196,000
内訳明細	0005	5	00	小運搬費		155	t	4,000	619,600
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

同一桁数での表現を「同一階層」と呼ぶ。

[1200]が同じ桁数(同一階層)で[1288]=「0」と「5」が混在しないようにする。

図 B.VI- 1 総括明細行と内訳明細行の混在の例

また、上記内容の対象範囲は現在実装規約化されているメッセージ全てとすることとした。これは、できる限り全てのメッセージで共通的なルールのもと運用することが求められるために、広く対象とすることとしたものである。

#### 5-2 内訳明細計行に係る留意点

各メッセージの明細表現に関する記載における、表「[1288]明細データ属性コードと[1289]補助明細コードの組合せによる明細行種類の表現」に関し、内訳明細計行（[1288]明細データ属性コード=5 かつ [1289]補助明細コード=90）の部分の記述について、記述の読み込み不足からくる混乱を防ぐため、以下のように補足説明する。

内訳明細計行の「備考」の2点目の記載については、以下のような記載に変更する。

同一階層内で、[1200]明細コード順にみた直前の内訳明細計行から、自行の直前までに存在する内訳明細本体行を、金額集計対象とすること。

同一階層内で、自行の直前までに内訳明細計行が無い場合は、同一階層内の先頭から自行の直前までを、金額集計範囲とすること。

またこれを図示すると以下の図のようになる。

（同一階層内で前に内訳明細計行が無い場合の例）

[1200] 明細コード	[1288] 明細データ 属性コード	[1289] 補助明細 コード	[1213] 品名	[1235] 今回迄累積出来高 金額明細
0001	5	00	壁タイル工事	500,000
0002	5	00	床タイル工事	200,000
0003	5	00	浴室タイル工事	300,000
0004	5	90	内部タイル工事費	1,000,000

図 B.VI- 2 内訳明細計行の記載の例(その 1)

（同一階層内で前に内訳明細計行がある場合の例）

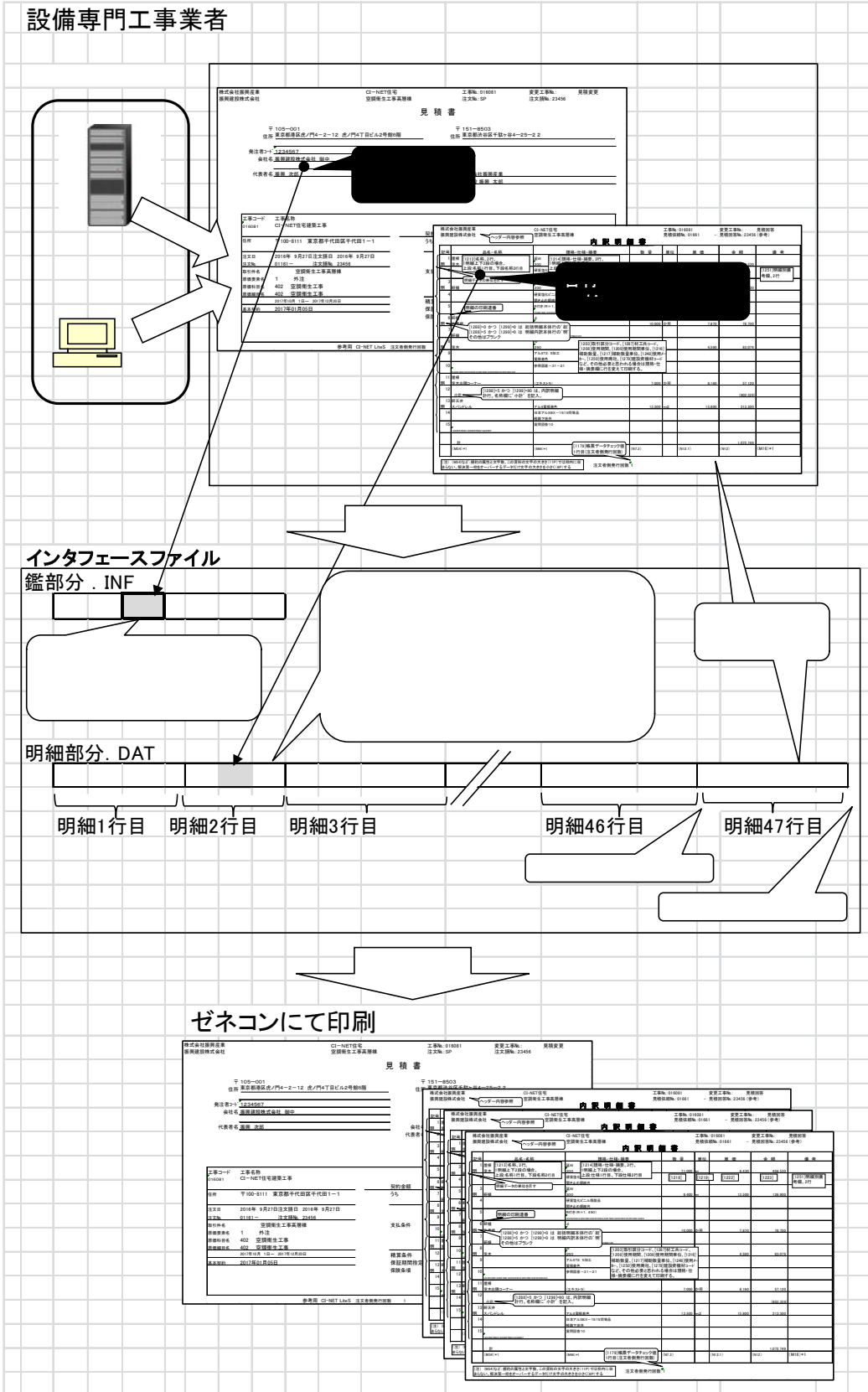
[1200] 明細コード	[1288] 明細データ 属性コード	[1289] 補助明細 コード	[1213] 品名	[1235] 今回迄累積出来高 金額明細
0001	5	00	壁タイル工事	500,000
0002	5	00	床タイル工事	200,000
0003	5	00	浴室タイル工事	300,000
0004	5	90	内部タイル工事費	1,000,000
0005	5	00	外壁タイル工事	700,000
0006	5	00	外床タイル工事	400,000
0007	5	90	外部タイル工事費	1,100,000

図 B.VI- 3 内訳明細計行の記載の例(その 2)

## 6. CSV インタフェイス機能

「CI-NET LiteS 実装規約 Ver2.1 ad.7 指針・参考資料」より抜粋  
設備見積書、取引先との授受する CI-NET インタフェイス  
ファイル拡張子が、.INF .DAT の CSV ファイルの作成方法を解説する。

(1) インタフェースファイル 作成イメージ





(2) 内訳明細書からインタフェースファイルを作成

自社で利用している見積書からインタフェースファイルを作成する場合の、明細部分(.DAT ファイル)の作成方法を示す。

インタフェースファイルを作成するには、txt 順序通りにデータ項目をセットする。

なお、下図に示すタグ、txt 順序などは、鑑部分.INF ファイルは p. 35~ 37、明細部分.DAT ファイルは、p.38 に示す。

1) 品名・名称と規格・仕様・摘要が左右別列に表示されている場合

内訳明細書に印刷されているデータ項目							
内訳明細書							
品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
空調設備工事						19[1251]明細別備考欄、2行	
11[1213]1行目	10[1214]1行目	14[1218]	15[1219]	16[1222]	17[1223]		
9[1213]2行目	12[1214]2行目						
機器設備工事							
空冷ヒートポンプパッケージエアコン	RAC-1	1	組	300,000	300,000		
	冷房能力2.2kW						
	暖房能力2.5kW						
空冷ヒートポンプパッケージエアコン	RAC-2	1	組	200,000	200,000		
	冷房能力2.2kW						
分岐管		1	式	100,000	100,000		
(以下省略)							

凡例

- txt順序
- タグ

11[1213]1行

2) 品名・名称と規格・仕様・摘要が同じ列にに表示されている場合

内訳明細書に印刷されているデータ項目							
内訳明細書							
品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
空調設備工事						19[1251]明細別備考欄、2行	
11[1213]1行目	10[1214]1行目	14[1218]	15[1219]	16[1222]	17[1223]		
9[1213]2行目	12[1214]2行目						
機器設備工事							
空冷ヒートポンプパッケージエアコン		1	組	300,000	300,000		
	RAC-1						
	冷房能力2.2kW						
	暖房能力2.5kW						
空冷ヒートポンプパッケージエアコン		1	組	200,000	200,000		
	RAC-2						
	冷房能力2.2kW						
分岐管		1	式	100,000	100,000		
(以下省略)							

凡例

- txt順序
- タグ

11[1213]1行

### (3) インタフェースファイル txt 順序

#### 凡例

##### ■ タグ

- ・ 個別のデータ項目に割り当てられた番号。

##### ■ 属性

- ・ データ項目に使用する文字の種類を識別する記号。

##### X 属性

1 バイト (半角) の英数文字、およびカタカナ。正確には、JIS-X0201 という JIS 規約で定められている 8 ビットの文字列データである。

X 属性のデータ項目では、本資料において特段の指定の無い限り、左詰めで記載する。

(例 1 参照)

また X 属性で右詰め指定がある項目では、その使用可能な桁数内において未使用の桁がある場合、その部分について、

- ・ 「sp」(スペース: 8bit 文字コード表の Hex 表示 20)
- ・ 「0」(ゼロ: 8bit 文字コード表の Hex 表示 30)

のいずれを使用してもよいものとする。

さらに X 属性の項目における使用可能な桁数以外の部分については、

- ・ 「sp」(スペース: 8bit 文字コード表の Hex 表示 20)

を入れるものとする。(例 2 参照)

【例 1】[1019]受注者担当郵便番号 (X 属性、最大バイト数 10) に「105-0001」を記載する場合。

正: 105-0001

誤: ss105-0001 ("s"はスペースを表す)

【例 2】[1179]帳票データチェック値 (X 属性、最大バイト数 15) に[1]データ処理 No. 「123」(15 バイトの中の右詰め 5 桁) を記載する場合。

正: ssssssssss00123

誤: ssssssssss123

誤: ssssssssss123ss

誤: 0000000000ss123

(注) LiteS 実装規約 Ver.2.1 ad.6 以前は「sssssssssss123」の表記も正と記載されていたため、同 Ver.2.1 ad.6 以前からの運用システムにおいては、「sssssssssss123」の表記も混在しており、注意が必要である。なお、「sssssssssss123」と表記している場合は、出来る限り速やかに「sssssssss00123」の表記に改修することが望ましい。

なお、本資料のメッセージサブセットの使用データ項目一覧表で「M」と記載するデータ項目では Mix モード (8 ビット文字と 16 ビット文字の混在) を許す。これらのデータ項目はシフト JIS コードで記載しなければならない。

#### 【重要事項】単位の記載について

本資料に定めるメッセージサブセットには、単位に関連する以下のデータ項目が含まれる。

[1219]明細数量単位

[1209]使用期間単位  
[1217]補助数量単位

これらのデータ項目では、CI-NET 標準 BP「3.2.3.12 単位コード」に定める単位コードを使用しなければならない。ただし CI-NET LiteS の運用上 Mix モードを許容するので、半角 (8 bit) 文字を使用してよい。しかし「m2」など、複数の英数カナ文字を含む単位コードについては、全ての英数カナ文字を半角 (8 bit) あるいは全角 (16 bit) 文字に統一しなければならない。

正：	m2	半角+半角
正：	m 2	全角+全角
誤：	m2	全角+半角
誤：	m 2	半角+全角
誤：	M2	CI-NET 標準 BP に定める単位コード以外の記載
誤：	平米	CI-NET 標準 BP に定める単位コード以外の記載

## K 属性

2 バイト (全角) のかな漢字など。

正確には、JIS-X0208 という JIS 規約で定められている 16 ビットの文字列データである。したがって、いわゆる外字は使用不可能。

外字の例；①、②、③...、㎡、キ、ッ、ヰ、ヱ...、(株)、(有)、(代)...

K 属性のデータ項目では、本資料において特段の指定の無い限り、左詰めで記載する。

### 【重要確認】

X 属性は 8bit 文字列、K 属性は 16bit 文字列であるが、CII シンタックスルールにより、共にこれら文字列では、最も右側にある空白以外の文字よりもさらに右側にある空白を省略することができる

### 【重要確認 2】

JIS X0213:2004 (JIS2004) という JIS 規約で定められている第三水準、第四水準および非漢字のうち JIS X0208 と比べこの JIS 規約で新たに追加定義された文字については使用してはならない。

## 9 属性

1 バイト(半角)の「0」～「9」の数字のみで表される数値。カンマは記載しない。

## N 属性

1 バイト(半角)の「0」～「9」の数字、「+」、「-」の正負記号、「.」の小数点で表される数値。カンマは記載しない。

### ■バイト数

- X 属性のデータ項目では最大文字数を示す。
- K 属性のデータ項目では、1 文字が 2 バイトなので、最大文字数の 2 倍を示す。
- 9 属性および N 属性のデータ項目では整数部の最大桁数を示す。小数点以下の桁数、小数点、正負記号はバイト数に含まれない。
- なお、ここに示す値はデータ項目の最大バイト数である。実際に送信するデータ項目の桁数がこの値より少ない場合は、必要な桁数だけ送信することができる。

### ■小数

- ・ 9 属性および N 属性のデータ項目の小数点以下の最大桁数を示す。
- ・ なお、上記のバイト数と同じく最大桁数であり、実際に送信するデータ項目の桁数がこの値より少ない場合は、必要な桁数だけ送信することができる。

#### ■回数

- ・ マルチデータ項目の最大繰り返し回数を示す。明細情報部の M6 レベル 1 における回数 ∞（無限大）とは、見積書の明細行を任意回数繰り返せることを表す。
- ・ なお、最大回数であり、最大回数以内に必要な回数だけ送信することができる。

#### ■マルチ

- ・ 「M」は、マルチ明細項目（繰り返し可能）であることを示す。逆に、マルチ欄に記載の無いデータ項目は同一メッセージ内に 1 度しか記載できない。
- ・ 「M9」、「ME」などの番号は、メッセージ内に複数存在するマルチ明細を特定する番号である。
- ・ 「M7 レベル 2」、「M8 レベル 2」は、「M6」のマルチの中でさらにもう一段のマルチがとられている（ネスト化されている：下図参照）ことを表す。これに対し「レベル 1」は、ネスト化されていないマルチを表す。

**見積明細書**

[1214]規格・仕様・摘要		[1219]明細数量単位		
[1213]品名・名称		[1218]明細数量	[1222]単価	

	品名	摘要	数量	単位	単価
1	玄関 床	JB	3.50	m2	20000.0
	花崗岩	100×100			
2	ホール 巾木	本磨き	10.00	m	5000.0
	花崗岩	100×25			
3	前室 飾り棚	本磨き	9.00	m2	20000.0
	大理石	850×450			

図 B. I - 1 マルチレベル 1 とレベル 2 の例

#### ■最大長

- ・ N 属性のデータ項目については、上記のバイト数と小数の桁数に、正負記号および小数点を加えた総桁数を示す。
- ・ X 属性、K 属性、9 属性については、上記のバイト数と同じ長さである。

#### ■使用・不使用のデータ項目

- ・ メッセージの「順序」に数字が入っているデータ項目は当該メッセージの CSV ファイルで使用できる項目。
- ・ メッセージの「順序」が空欄のデータ項目は当該メッセージで使用してはならない項目。

1) 全体情報部分 (鑑、拡張子=INF)のデータ項目記載順序の表

設備見積依頼/回答、機器見積依頼/回答

タグ	項目名	CI-NET LiteS定義				設備見積		機器見積		マルチ	タグ	設備見積 txt 順序	設備 機器 見積 txt 順序
		属 性	byt e数	小 数	回 数	最 大 長	依 頼 順 序	回 答 順 序	依 頼 順 序				
1	データ処理No.	9	5		5	●	●	●	●		1	1	1
2	情報区分コード	X	4		4	●	●	●	●		2	2	2
3	データ作成日	9	8		8	●	●	●	●		3	3	3
4	発注者コード	X	12		12	●	●	●	●		4	4	4
5	受注者コード	X	12		12	●	●	●	●		5	5	5
1197	サブセット・バージョン	X	12		12	●	●	○	○	1197	6	6	6
9	訂正コード	X	1		1	●	●	●	●	9	7	7	7
1006	工事コード	X	12		12	○	○			1006	8	8	8
1007	帳票No.	X	14		14	●	●	●	●	1007	9	8	8
1008	帳票年月日	9	8		8	●	●	●	●	1008	10	9	9
1009	参照帳票No.	X	14		14	●	●	●	●	1009	11	10	10
1010	参照帳票年月日	9	8		8	●	●	●	●	1010	12	11	11
1181	帳票名称	K	60		60	○	○			1181	13		
1023	受注者コード2	X	10		10					1023			
1046	取引件名(注文件名)コード	X	8		8					1046			
1191	原価要素名	K	16		16								
1192	原価要素コード	X	5		5								
1193	原価科目名	K	40		40								
1194	原価科目コード	X	5		5								
1195	原価細目名	K	24		24								
1196	原価細目コード	X	5		5								
1013	受注者名	K	40		40	○	○	○	○	1013	14	11	11
1015	受注者代表者氏名	K	28		28					1015			
1017	受注者担当部署名	K	40	1	40	○	○	○	○	M9レベル1 1017	15	12	12
1018	受注者担当者名	K	20	1	20	○	○	○	○	M9レベル1 1018	16	13	13
1019	受注者担当郵便番号	X	10	1	10	○	○	○	○	M9レベル1 1019	17	14	14
1020	受注者担当住所	K	60	1	60	○	○	○	○	M9レベル1 1020	18	15	15
1021	受注者担当電話番号	X	15	1	15	○	○	○	○	M9レベル1 1021	19	16	16
1022	受注者担当FAX番号	X	15	1	15	○	○	○	○	M9レベル1 1022		17	17
1165	受注者決裁者名	K	20	1	20					MEレベル1 1165			
1166	受注者建設業許可区分・登録コード	K	40		40					1166			
1167	受注者建設業許可工事業種	K	24	5	24					MFレベル1 1167			
1168	受注者建設業許可日	K	22		22					1168			
1024	発注者名	K	56		56	○	○	○	○	1024	20	18	18
1005	JV工事フラグ	X	1		1					1005			
1003	その他のJV構成企業名	K	56	3	56					MRレベル1 1003			
1028	発注者担当部署名	K	40	2	40	○	○	○	○	MAレベル1 1028	21	19	19
1029	発注者担当者名	K	20	2	20	○	○	○	○	MAレベル1 1029	22	20	20
1030	発注者担当郵便番号	X	10	2	10					MAレベル1 1030		21	21
1031	発注者担当住所	K	60	2	60					MAレベル1 1031		22	22
1032	発注者担当電話番号	X	15	2	15					MAレベル1 1032		23	23
1033	発注者担当FAX番号	X	15	2	15					MAレベル1 1033		24	24
1028	マルチ2回目				40					1028	23	25	25
1029	マルチ2回目				20					1029	24	26	26
1030	マルチ2回目				10					1030		27	27
1031	マルチ2回目				60					1031		28	28
1032	マルチ2回目				15					1032		29	29
1033	マルチ2回目				15					1033		30	30
1169	発注者決裁者名	K	20	2	20					MGレベル1 1169			

設備見積依頼、回答はファイル1つ

設備機器見積依頼、回答はファイル1つ

依頼、回答は一ファイルの同一フォーマット(並び順)なので、各メッセージで使用しないデータ項目の箇所は何も記載しない(タブを連続させる)。以下、同様。

タグ	項目名	CI-NET LiteS定義				設備見積		機器見積		マルチ	タグ	設備見積 txt 順序	設備機器見積 txt 順序
		属性	byte数	小数	回数	最大長	依頼	回答	依頼				
1372	工種・科目コード	M	12		12	○	○				1372	25	
1042	工事場所・受渡し場所名称	K	76		76	○	○	○	○		1042	26	31
1173	工事場所・受渡し場所略称	K	50		50						1173		
1016	工事場所・受渡し場所郵便番号	X	10		10	○	○				1016	27	
1043	工事場所・受渡し場所住所	K	60		60	○	○	○	○		1043	28	32
1025	工事場所・受渡し場所所長名	K	20		20						1025		
1027	工事場所・受渡し場所担当者名	K	20		20						1027		
1041	工事場所・受渡し場所電話番号	X	15		15	○	○				1041	29	
1182	工事場所・受渡し場所FAX番号	X	15		15	○	○				1182	30	
1371	工事場所・受渡し場所所在地コード(JIS)	X	5		5	○	○				1371	31	
1045	取引件名(注文件名)	K	40		40	○	○	○	○		1045	32	33
1047	受渡し方法	M	30		30			○	○		1047		34
1052	工事・納入開始日	X	8		8			○	○		1052		35
1053	工事・納入終了日・納入期限	X	8		8			○	○		1053		36
1139	工期・納期指定	K	120		120	○	○				1139	33	
1044	別途受渡し場所名称	K	76		76						1044		
1095	別途受渡し場所住所	K	60		60						1095		
1055	精算条件	M	60		60						1055		
1056	支払条件	M	60	4	60	○	○	○	○	M2レベル1	1056	34	37
	同 マルチ2回目				60							35	38
	同 マルチ3回目				60							36	39
	同 マルチ4回目				60							37	40
1069	受注者側見積・契約条件	M	76	20	76		○		○	M3レベル1	1069	38	41
	同 マルチ2回目				76							39	42
	同 マルチ3回目				76							40	43
	同 マルチ4回目				76							41	44
	同 マルチ5回目				76							42	45
	同 マルチ6回目				76							43	46
	同 マルチ7回目				76							44	47
	同 マルチ8回目				76							45	48
	同 マルチ9回目				76							46	49
	同 マルチ10回目				76							47	50
	同 マルチ11回目				76							48	51
	同 マルチ12回目				76							49	52
	同 マルチ13回目				76							50	53
	同 マルチ14回目				76							51	54
	同 マルチ15回目				76							52	55
	同 マルチ16回目				76							53	56
	同 マルチ17回目				76							54	57
	同 マルチ18回目				76							55	58
	同 マルチ19回目				76							56	59
	同 マルチ20回目				76							57	60
1174	発注者側見積・契約条件	M	62	8	62	○				M1レベル1	1174	58	
	同 マルチ2回目				62							59	
	同 マルチ3回目				62							60	
	同 マルチ4回目				62							61	

		CI-NET LiteS定義					設備見積		機器見積				設備見積	設備機器見積
タグ	項目名	属性	byte数	小数	回数	最大長	依頼	回答	依頼	回答	マルチ	タグ	txt 順序	txt 順序
	同 マルチ5回目					62							62	
	同 マルチ6回目					62							63	
	同 マルチ7回目					62							64	
	同 マルチ8回目					62							65	
1175	特記事項	M	76		10	76					MJレベル1	1175		
1176	特記事項2	M	76		20	76					MKレベル1	1176		
1070	見積有効期限年月日	X	8			8						1070		
1140	見積有効期間	K	40			40			○			1140	66	61
1141	見積提出期限年月日	X	8			8	○					1141	67	
1071	運送費用負担	M	20			20			○	○		1071		62
57	消費税コード	X	1			1			○			57	68	
59	課税分類コード	X	1			4			○			59	69	
1004	消費税率	N	3	1		6						1004		
1088	明細金額計	N	12			13			○	○		1088	70	63
1089	明細金額計調整額	N	12			13			○			1089	71	
1090	調整後帳票金額計	N	12			13			○			1090	72	
1096	消費税額	N	12			13			○	○		1096	73	64
1097	最終帳票金額	N	12			13			○	○		1097	74	65
1014	送り状案内	M	76		39	76					MQレベル1	1014		
1183	使用メーカー名	K	40		10	40					MOレベル1	1183		
1184	使用メーカー見積金額合計	N	12		10	13					MOレベル1	1184		
1185	使用メーカー購入品名、数量 単位	M	40		10	40					MOレベル1	1185		
1186	使用メーカー購入品数量	N	7		10	8					MOレベル1	1186		
1187	使用商社名	K	40		10	40					MPレベル1	1187		
1188	使用商社見積金額合計	N	12		10	13					MPレベル1	1188		
1189	使用商社購入品名、数量単位	M	40		10	40					MPレベル1	1189		
1190	使用商社購入品数量	N	7		10	8					MPレベル1	1190		
1136	備考	M	240		1	240			○	○	M5レベル1	1136	75	41 66
55	自由使用欄	X	120			120			○			55	76	
1179	帳票データチェック値	X	15		9	15	○	○			MMレベル1	1179	77	
	同 マルチ2回目					15							78	
	同 マルチ3回目					15							79	
	同 マルチ4回目					15							80	
	同 マルチ5回目					15							81	
	同 マルチ6回目					15							82	
	同 マルチ7回目					15							83	
	同 マルチ8回目					15							84	
	同 マルチ9回目					15							85	
1383	受注者側専用使用欄	M	120		5	120	○	○			MUレベル1	1383	86	
	同 マルチ2回目					120							87	
	同 マルチ3回目					120							88	
	同 マルチ4回目					120							89	
	同 マルチ5回目					120							90	
1384	発注者側専用使用欄	M	120		5	120	○	○			MVレベル1	1384	91	
	同 マルチ2回目					120							92	
	同 マルチ3回目					120							93	
	同 マルチ4回目					120							94	
	同 マルチ5回目					120							95	

2) 明細部分(拡張子=DAT)のデータ項目記載順序の表

設備見積(依頼/回答)、機器見積(依頼/回答)

タグ	項目名	CI-NET LiteS定義				設備見積		機器見積		マルチ	タグ	txt 順序	設備 見積 txt 順序	設備 機器 見積 txt 順序
		属性	byte数	小数	回数	最大長	依頼	回答	依頼					
1200	明細コード	X	50	∞	50	●	●	●	●	M6レベル1	1200	1	1	
1294	階層レベル	9	2	∞	2					M6レベル1	1294			
1295	階層内通し番号	9	4	∞	4					M6レベル1	1295			
1288	明細データ属性コード	X	1	∞	1	●	●	●	●	M6レベル1	1288	2	2	
1289	補助明細コード	X	2	∞	2	●	●	●	●	M6レベル1	1289	3	3	
1201	明細番号	X	25	∞	25					M6レベル1	1201			
1278	明細番号2	X	5	∞	5					M6レベル1	1278			
1203	明細別取引区分コード	X	5	∞	5	○	○			M6レベル1	1203	4		
1287	明細別材工共コード	X	2	∞	2					M6レベル1	1287			
1279	建設資機材コード	X	40	∞	40	○	○	○	○	M6レベル1	1279	5	4	
1280	コード送信側変換結果コード	X	2	∞	2	○	○			M6レベル1	1280	6		
1281	建設資機材標準名称	K	240	∞	240	○	○	○	○	M6レベル1	1281	7	5	
1282	コード受信側変換結果コード	X	2	∞	2	○	○			M6レベル1	1282	8		
1405	C-CADEC機器分類コード	X	40	∞	40			○	○	M6レベル1	1405			6
1213	品名・名称	M	54	2	54	○	○	○	○	M7レベル2	1213	9	7	
1214	規格・仕様・摘要	M	66	2	66	○	○	○	○	M7レベル2	1214	10	8	
1213	マルチ2回目				54						1213	11	9	
1214	マルチ2回目				66						1214	12	10	
1401	設計記号・機器記号	M	12	∞	12			○	○	M6レベル1	1401			11
1402	工種・科目コード	M	12	∞	12					M6レベル1	1402			
1403	部位区分	M	12	∞	12					M6レベル1	1403			
1211	摘要コード	X	54	∞	54	○	○			M6レベル1	1211	13		
1208	使用期間	N	5	2	9					M6レベル1	1208			
1209	使用期間単位	M	6	∞	6					M6レベル1	1209			
1216	補助数量	N	7	3	12					M6レベル1	1216			
1217	補助数量単位	M	6	∞	6					M6レベル1	1217			
1218	明細数量	N	7	3	12	○	○	○	○	M6レベル1	1218	14	12	
1219	明細数量単位	M	6	∞	6	○	○	○	○	M6レベル1	1219	15	13	
1222	単価	N	12	1	15	○	○			M6レベル1	1222	16	14	
1223	明細金額	N	12	1	13	○	○	○	○	M6レベル1	1223	17	15	
1292	定価	N	12	1	15	○	○	○	○	M6レベル1	1292	18	16	
1293	単価掛率	N	3	1	6					M6レベル1	1293			
1404	仕分け区分	M	24	∞	24					M6レベル1	1404			
1247	明細別使用メーカーコード	X	25	∞	25			○	○	M6レベル1	1247			17
1248	明細別使用メーカー名	K	40	∞	40			○	○	M6レベル1	1248			18
1284	建設資機材メーカー・型番コード	X	25	∞	25			○	○	M6レベル1	1284			19
1249	明細別使用商社コード	X	25	∞	25					M6レベル1	1249			
1250	明細別使用商社名	K	40	∞	40					M6レベル1	1250			
1251	明細別備考欄	M	16	2	16	○	○	○	○	M8レベル2	1251	19	20	
1251	同 マルチ2回目				16						1251	20	21	
1413	明細別変更コード	X	1	∞	1					M6レベル1	1413			

設備見積依頼、回答は  
ファイル1つ

設備機器  
見積依頼、  
回答はフ  
ァイル1つ

依頼、回答は一ファイルの  
同一フォーマット(並び順)  
なので、各メッセージで使  
用しないデータ項目の箇  
所は何も記載しない(タブ  
を連続させる)。



1. 見積書

株式会社振興産業 振興建設株式会社	CI-NET住宅 空調衛生工事高層棟	工事No.:016081 注文No.:SP	変更工事No.: 注文No.:23456	見積変更
<b>見積書</b>				
〒105-001 住所 東京都港区虎ノ門4-2-12 虎ノ門4丁目ビル2号館6階	〒151-8503 住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-22			
発注者コード:1234567 会社名 振興建設株式会社 御中				
代表者名 振興 次郎	会社名 株式会社振興産業 代表者名 取締役 振興 太郎			
契約金額				
工事コード 016081	工事名称 CI-NET住宅建築工事	うち	工事金額 ¥136,620,000 円	
住所 〒100-8111 東京都千代田区千代田1-1			消費税額 8% ¥126,500,000 円	
注文日 2016年 9月27日	注文申請日 2016年 9月27日		消費税コード 2:外税	課税分類コード 1:課税対象
注文No. 01161 -	注文申請No. 23456			
取引件名 1 外注	空調衛生工事高層棟			
原簿要素名 402 空調衛生工事				
原簿科目名 402 空調衛生工事				
原簿細目名 2017年10月 1日 ~ 2017年12月20日				
基本契約 2017年01月05日				
支払条件 (請求締切)毎月20日(支払)翌月10日 (部分払い)出来高・納入高の 100% 現金 100% 手形 0%				
精算条件 実数による				
保証期間指定 無償保証期間 施工引渡し日から1年				
保険条項 労災保険の加入 注文者				
参考用 CI-NET LiteS 注文者側発行回数 1		受注者側発行回数 2		





### 内訳明細書

記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考
1	屋根 [1213]名称、2行、 1明細上下2段の場合、 上段:名称1行目、下段名称2行目	延W 300 硬質塩化 開き止め銅線共	71.000	m	6.430	456,530	[1251]明細別備 考欄、2行
3	軒樋	明細データの単位を示す	9.400	m	13,500	126,900	
4	軒樋	硬質塩化ビニル既製品 開き止め銅線共					
5	軒樋	R付き (R=1, 490) φ					
6	軒樋	明細の印刷連番					
7	軒樋	[1288]=0 かつ [1299]=0 は 総括明細本体行の'総' [1288]=5 かつ [1299]=0 は 明細内訳本体行の'明' その他はブランク	10.000	か所	7,870	78,700	
8	笠木	[1203]取引区分コード、[1287]材工共コード、 [1208]使用期間、[1209]使用期間単位、[1216] 補助数量、[1217]補助数量単位、[1248]使用メ ーカ、[1250]使用箇所、[1279]建設資機材コード など、その他必要と思われる場合は規格・仕 様・摘要欄に行を変えて印刷する。	4.500			83,079	
9	電解着色	アルミT2: 5加工					
10	参照図意-31-21						
11	屋根 笠木出隅コーナ	(エキストラ)	7.000	か所	8,160	57,120	
12	小計	[1288]=5 かつ [1299]=90 は、内訳明細 計行。名称欄に'小計'を記入。				(802,329)	
13	軒天井 スバンドレル	アルミ電解着色 日本アルミEX-1515同等品 経年下地共	13.500	m2	15,800	213,300	
14	質問回答10						
15	計	(M66)*1				1,072,749	(M16)*1
		[1179]帳票データチェック値 1行目(注文者側発行回数)			(N12.1)		(N12)
			(N7.3)				

(注) (M54)など、規約の属性と文字数。この資料の文字の大きさ(11P)では枠内に収まらない。解決策一律をオーバーするデータだけ文字の大きさを小さく(6P)する

注文者側発行回数



設備 名称、摘要は下段のみ使用の「明細例」を提示する 2019/01/18 帆足

2. 内訳明細「書」のイメージ 正規と正規ではない場合

明細部分の総括明細行([1288]=「0」と内訳明細行([1288]=「5」)の使用方法

内訳明細「書1」のイメージ		正規ではない場合 A		CI-NET形式データのイメージ					
記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単価	金額	備考	明細コード	1288 明細データ 属性コード	1289 補助明細 コード
1	衛生設備工事		1 式	8,316.625	8,316.625		0001	0	00
改ページ									
2	衛生設備工事						00010001	0	80
3	衛生器具設備工事		1 式	1,523.200	1,523.200		00010002	0	00
4	給水設備工事		1 式	6,793.425	6,793.425		00010003	NGI 5	00
改ページ									
5	衛生器具設備工事						000100020001	5	80
6	シングルレバー混合水栓	TKN34PBN	9 個	60,300	542,700		000100020002	5	00
7	熱湯栓	TT76D	9 個	36,500	328,500		000100020003	5	00
8	洋風大便器	C550SU1TEF64AWS.TES46M	2 組	326,000	652,000		000100020004	5	00
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 正規は次ページ参照             </div>									

② ii・同一階層内の共通する属性が「0」、すなわち総括明細を表す階層で[1288]=「0」の場合、この階層に「5」は出現してはならない。なお風割条件等を示す「1、2、3、4」がつまり、同一階層かつ同一グループでは、全て「0」または「5」。

明細部分の総括明細行([1288]=「0」)と内訳明細行([1288]=「5」)の使用方法

		内訳明細「書」のイメージ				正規編 A				CI-NET形式データのイメージ			
記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考	1200 明細コード	1288 明細データ 属性コード	1289 補助明細 コード			
1	衛生設備工事		1	式	8,316.625	8,316.625		0001	0	00			
改ページ													
2	衛生設備工事							00010001	0	80			
3	衛生器具設備工事							00010002	0	00			
4	給水設備工事		1	式	6,793.425	6,793.425		00010003	5=0	00			
改ページ													
5	衛生器具設備工事							000100020001	5	80			
6	シングルレバー混合水栓	TKN34PBN	9	個	60.300	542.700		000100020002	5	00			
7	熱湯栓	T76D	9	個	36.500	328.500		000100020003	5	00			
8	洋風大便器	C550.SU.TEF84AWS.TES46M	2	組	326.000	652.000		000100020004	5	00			

2「給水設備工事」では、1階層下に明細データを持っているとして打ち止めとする。  
[1288]明細データ属性コード=0



# 明細部分の総括明細行([1288]=「0」)と内訳明細行([1288]=「5」)の使用方法

内訳明細「書」のイメージ		正規ではない場合 B				CI-NET形式データのイメージ	
記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考
5	1衛生器具設備工事						
6	シンダレルバー混合水栓		1	式	542,700	542,700	
7	熱湯栓	T76D	9	個	36,500	328,500	
8	洋風大便器	CS50SU_TEF84AWIS_TES46M	2	組	326,000	652,000	
改ページ							
9	シンダレルバー混合水栓						
10	TKN34PBN	回転範囲 110°・150°・360° 3レベル調節	9	個	60,300	542,700	
11	整流吐水						
12	流量 13リットル/分						

1288	1289	1200	1288	1289
明細データ	補助明細	明細コード	明細データ	補助明細
属性コード	コード		属性コード	コード
5	80	000100020001	5	80
5	00	000100020002	5	00
5	00	000100020003	5	00
5	00	000100020004	5	00

設備見積の個別ルール。 ③ ii ・内訳明細行「5」の下に明細データを持つことはできない。  
設備機器量算の場合のみ、③ ii ・内訳明細行「5」の下に「階層のみ「5」を持つことができる。

正規は次ページ参照

明細部分の総括明細行([1288]=「0」)と内訳明細行([1288]=「5」)の使用方法

内訳明細「書」のイメージ		正規編 B				CI-NET形式データのイメージ	
記号	品名・名称	規格・仕様・摘要	数量	単位	単価	金額	備考
5	衛生器具設備工事						
6	シングルレバー混合水栓		1	式	542.700	542.700	
7	熱湯栓	T76D	9	個	36.500	328.500	
8	洋風大便器	C550SU.TEF84AWS.TES46M	2	組	326.000	652.000	
改ページ							
9	シングルレバー混合水栓						
10	TKN34PBN	回転範囲 110°・150°・360° 3レベル調節	9	個	60.300	542.700	
11	整流吐水						
12	流量 13リットル/分						

「シングルレバー混合水栓」では、1階層下に明細データを持たせるために、同一階層の同一グループの[1288]明細データ属性コード=0と揃える

本資料を利用する場合あるいはソフト等を開発し販売を行う場合（製品の販売を目的とした開発）は、事前にご相談ください。

## 設備見積業務におけるCI-NET形式データ作成の解説

---

2018年02月21日 発行

### 【禁無断転載】

発行 一般財団法人 建設業振興基金  
情報化評議会

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門 4-2-12  
虎ノ門 4 丁目MTビル2号館  
tel. 03-5473-4573  
fax. 03-5473-4580  
E-mail ci-net@kensetsu-kikin.or.jp  
URL <http://www.kensetsu-kikin.or.jp/ci-net/>